

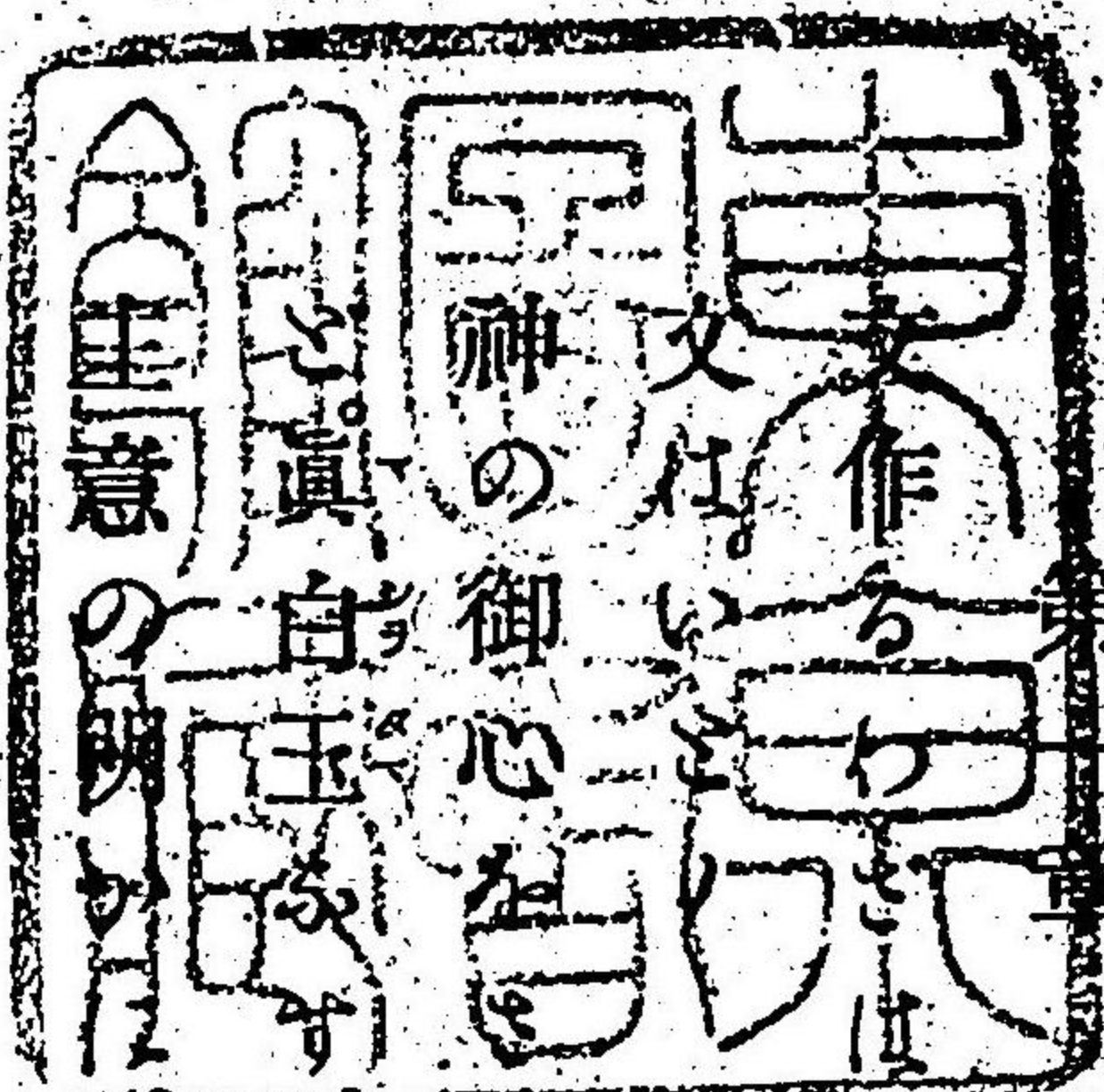
68-187

№232/187

訂正 増補 祝詞作文法

第一章

作文大意



最難し。とりわきて。神の御前に申す祝詞  
 難きわざありとす。そは。人の情こころは更なり。  
 へ感せしむべき文あればありかし。され  
 めでなく美よししき文を作らむ事こそあれ。  
 文脈の滞りふく聞ゆるばかりの文作ら  
 むかたには。ふか〜難からずともいふべきが如し。そ  
 は。如何といふに。祝詞文は。記事文或ハ論文ふとハ異

本居豊、頼 春山頼母 著



にて其の體裁粗一定せるものふればふり依て之を作らむとするには先一定の體格ある事を知るに在り其の體格を知らむとするには一篇の文は如何ふる意味をもてる種々の句より組立てられたりやはたそを組立てたる種々の句は如何ふる順序もて一篇の文を綴り成したりやといふ事を知るべきなり

そも祝詞文を組立てたる句に八種の別あり拜詞句神德句由縁句感謝句裝束句作行句獻供句祈願句なり又拜詞に發端と結尾との二種の別あり此の種々の句を以て一篇の文を綴り成す上におきて其の順序の異同あり即ち左の如し

- い 發端拜詞句
- ろ 神德句
- は 獻供句
- に 祈願句
- ほ 結尾拜詞句
- い 發端拜詞句
- ろ 神德句
- は 祈願句
- に 獻供句
- ほ 結尾拜詞句

右の二格は祝詞文の常格あり。そが中にも前格を以て普通格とす。さて此の二格。いづれも神徳句の位置に。更に由縁句を置くことあり。由縁句は神事にもあれ。何事にもあれ。物の古事本縁をいへる詞どもふれば。自然に其の句法は。餘の句どもと大に異なり。そは神徳句などの諸句は。其の續け成し。長きものふるを。由縁句は。本來記事文ふるが故に。その續けなしは。餘の諸句に比しては。大に短きものふり

又感謝句は。神徳を感謝し奉れる詞どもふれば。必神徳句の下に接續し。裝束作行の二句は。神徳句と獻供句或は祈願句との間に挟み置くものふり。之を要するに。拜

詞神徳由縁獻供祈願の五句は。祝詞文を組立つること。その骨あり肉あり。其餘の感謝裝束作行の三句は。皮膚あり毛髪ありと知るべし。故に長篇の祝詞ハ

い 發端拜詞句

ろ 神徳句或ハ由縁句

は 感謝句

に 裝束句或ハ作行句

ほ 獻供句

へ 祈願句

と 結尾拜詞句

といふ順序もて。一篇の文を綴り成すものふり。これ祝

詞文を作る法の大體ありとす。故に祝詞文を作らむと  
 するもの。此の章に通曉したらむのちは。直に次章に移  
 りて。句の林にわけいりて。其の生ひ立てる句どもの。或  
 ハ短く或ハ長く或ハ直く或ハ曲れるさまの枝振ある  
 ことを辨へ知るべし。さては。またその次章に進みて。文  
 の園になちいりて。其の句ひ咲ける花を手折りてかざ  
 しつゝありふば。つひにわが思ふまゝに文を作り成し  
 得べく。また主意もおぼくしからず。文脈も亂れざる  
 べし。然れど。此の文例は。主と正格の文のみを採輯した  
 るが故に。祝詞文の妙。此の書に止まらざるあり。學者い  
 やたどりにたどりて。古事記。及古風土記の文。續日本紀

に載れる宣命文。また萬葉集の歌詞ふどの古言の妙處  
 に踏分け入るべし。かく勞きつゝありふば。遂に人の心  
 はさらふり。神の御慮をも動し奉るばかりの文も作り  
 えられふむかし

謂ゆる八種の句は。章句の句にて。句讀の句にあらず。故  
 に語意の全く絶れたるも絶れざるもあり。句讀の句は。  
 語意の全く絶れたるものにて。語學にいへる截斷言ふ  
 り。本書の文例に。一此の如き短線を注せるハ。即ち句讀  
 の句を示せるあり

さて又祝詞作りならむのち。其の書様をも正しくすべ  
 し。文はいかによく作りふしたりとも。その書様の法も

なく猥りふるは。心劣りせらるゝのみふらず。見む人も  
読み難く。はた読み誤りぬべし。之を正しくせむとする  
は。送假字の規則を知るにあり。送假字は。必音假字を用  
ゐて。訓假字を用ぬ例ふれば。古く慣用したれども。ト  
の假字に止を用ぬ。テハといふに而者と書くふどハ。宜  
しからずと心得べし。其の假字の事ハ。尙第四章にいは  
むとす

### 第二章 句例

抑。祝詞文を作らむとするには。先祝詞の句法を知らざ  
るべからず。そは。一篇の文は。數多の句を以て組立てた  
るものふればふり。故に學者必まつ此の篇を熟讀玩味

して。句を作り章をなす法を悟入すべし

### 發端拜詞句

此の條は。祝詞文の首に。まづ言ひ出で。神を  
拜む詞を舉ぐ

度會乃 宇治五十鈴川上爾。大宮柱太敷立天。高天原爾千  
木高知天稱辭竟奉留。天照坐皇太神乃大前爾申久(祝詞  
式)

こは。首に鎮座の地名を置き。次に神名拜詞を書く例  
文とすべし。但し。拜詞に稱辭竟奉留と書くは。天皇の  
御言に限ることにはやと思はるゝよしあれば。普通に  
は。之に換ふるに鎮坐須ふといふべし。又。神名の上に

は。掛卷久毛畏伎ふどの詞を冠らすべし。凡て。式の祝詞は。天皇の申給ふ御言ふれば。普通には其の儘用ぬ難き事多かり。心得ではあるべからず。

皇御孫命御命以伊勢能度會五十鈴河上爾稱辭竟奉流。天照坐皇太神能大前爾申給久(祝詞式)

此の文は。本文を畧けるものあり。普通には。皇御孫命御命以の七字を省き。又上に同じく。河上爾鎮坐須と書くべし。

出雲國乃青垣山内爾。下津石根爾宮柱太敷立氏。高天原爾千木高知坐須。伊射那伎乃日眞名子。加夫呂伎熊野大神櫛御氣野命。國作坐志大穴持命。二柱神乎始天。

百八十六社坐皇神等(祝詞式)

於宇迦能山之山本。於底津石根宮柱布刀斯理。於高天原冰椽多迦斯理而(古事記)

石上振之神樞。伐木截末。於市邊宮治天下。天萬國萬押磐尊(日本書紀)

御縣爾坐皇神等前爾白久。高市葛木。十市志貴山邊。曾布登。御名者白氏(祝詞式)

水分坐皇神等能前爾白久。吉野宇陀都祁葛木登。御名者白氏辭竟奉者(祝詞式)

いは。上と同じく地名を首に置きたれども。次に祭るべき神等を取すべし。皇神等云々と先語を結び。次に

神名を並へ擧ぐるものにて。是亦一の體ふり。之を普通  
通の文に移さば。某神社爾坐須。皇神等乃御前爾白左  
久。某命某命登御名波白志氏ふどいふべし

大御巫能辭竟奉。皇神等能前爾白久。神魂高御魂。生魂足  
魂。玉留魂。大官乃寶。大御膳都神。辭代主登。御名者白而辭

竟奉者(祝詞式)

御門能御巫能稱辭竟奉。皇神等能前爾白久。櫛磐間門命。  
豐磐間門命登。御名者白氏辭竟奉者(祝詞式)

此は神を齋き祀る者を首に置きたるが。上文と稍異  
ふるのみにて。其の餘は同ト  
三柱綿津見神者。阿曇連等之祖神以伊都久神也(古事

記)

此は祝詞文に移さば。某我以崇伎奉留。掛卷母畏伎  
皇神乃御前爾白左久ふどいふべし

天皇我大命爾坐世。恐岐鹿島坐健御賀豆智命。香取坐伊  
波比主命。枚岡坐天之子八根命。比賣神。四柱能皇神等能  
廣前仁白久(祝詞式)

此は他處々に鎮坐せる神等を。一處にて祭祀を行ふ  
時の例文とすべし。但し。普通のは。首の天皇我云々の  
八字は。冠らすべからず

天皇我御命爾坐世。今木與利仕奉來流。皇大御神能廣前  
爾白給久(祝詞式)

天皇我御命爾坐世久度古開二所能宮爾之氏仕奉來流  
皇御神能廣前爾白給久(祝詞式)

こは。仕奉り來し所由を言ふ時の例文とすべし。但し。  
神名をば省くべからず

高天之原爾事始氏。皇御孫之命止稱辭竟奉。大八衢爾湯  
津磐村之如久塞坐。皇神等之前爾申久。八衢比古八衢比  
賣久那斗止。御名者申氏辭竟奉久波(祝詞式)

こは。首に皇神等の坐す緣由を云ひて。次に御名を申  
せるものにて。是亦一の體ふり

結尾拜詞句

此の條は。祝詞文の結に置きて。神を拜む詞を

舉ぐ

萬世爾御坐令在米給登。稱辭竟奉久登申(祝詞式)

右の如く。稱辭竟奉久を以て結べるは。祝詞式大方の  
例ふれども。こは朝廷の御祭にて。天皇より申給ふ御  
言ふる故に。かく大らかに云へるなり。普通には。祈禱  
奉良久又乞願奉良久など。書くべし。但し。元始祭ふ  
どの祝祭には。祝辭もて結むるも可ふるべし

今年十二月某日齋比鎮奉止申(祝詞式)

こは。鎮御魂齋戸祭の詞ふれば。かくは申せるふり。故  
に神を鎮祭する時の例文とすべし  
御相殿爾齋鎮奉留狀乎。神隨母所聞食豆。相宇豆那比



賜閉登恐美恐美母白須(縣居家集)

大中臣太玉串爾隱侍天。今年九月十七日。朝日豐榮登爾。天津祝詞乃太祝詞辭乎稱申事乎。神主部物忌等諸聞食止宣(祝詞式)

こは宣命の詞なれば。かくは云へるふり。普通の祝詞ふらむには。云々稱申須事乃由乎平氣久安氣久聞食

世止恐美恐美毛白須と書くべきふり。大中臣茂梓中取持氏。恐美恐美毛申給久止申(祝詞式)

こは齋内親王奉入時の詞ふれば。かくは申せるふり。普通の祝詞ふらむには。姓名鹿自物膝折伏世恐美恐美毛白須。又鶉成須伊波比回利云々。又鶉自物頸根

衝拔氏云々と白すへきふり

今日乃御祭爾相集閉留神主等諸共爾。鶉成並居。宇自物頸根衝拔。平手打上氣拜美恐美恐美毛申給波久

登白須(古學諄辭集)

畏自物進退比匍匐比。鶉自物項根突拔。天之八平手打上。畏美畏美毛言告里祝伎奉留登白須(古學諄辭集)

集

大御祭仕奉流事乃由乎。皇神等乃御心毛明爾所聞食登。恐美恐美毛申賜久登白須(祝詞文例)

右等の中に。云云登白須と結ぶ所を。申賜波久登白須といふは。天皇の命に隨ひて宣る時にいふが。本義ふ

るべく思はるれば。普通の詞には。避くる方穩ふるべし

神徳句

此の條は。皇神の御功德を稱へ奉れる詞を舉ぐ

皇御孫命御世乎。手長御世登。堅磐爾常磐爾齋比奉。茂御世爾奉閉奉故(祝詞式)

皇御孫命乃御世乎。堅磐常磐爾奉護利。五十檀御世乃足良志御世爾。田永能御世止奉福爾依氏(祝詞式)

以上の文は。大御世を遠長に榮え坐すべく幸へ給ふ神徳を。稱へ奉れるふり

皇神能敷坐島能八十島者。谷蟆能狹度極。鹽沫能留限。狹國者廣久。峻國者平久。島能八十島墮事無。皇神等能依左志奉故(祝詞式)

こは。天下四方の國を。漏るゝ事ふく。天皇へ寄せ奉り給ふ神徳を。稱へ奉れる文なり

山野海河在者。多爾久久乃左和多流岐波美。加弊良乃加用布岐波美。波多乃廣物波多乃狹物。毛乃荒物。毛乃和物。供御雜物等(高橋氏文)

四方内外御門爾。如湯津磐村久塞坐氏。四方四角與利疎備荒備來武。天能麻我都比登云神乃言武惡事爾相麻自許利。相口會賜事無久。自上往波上護利。自下往波下護利。

待防掃却言排坐氏。朝波開門夕波閉門。參入罷出人名  
乎問所知志。咎過在乎波。神直備大直備爾。見直聞直坐氏。  
平良氣久安良氣久令奉仕賜故(祝詞式)

こは。大宮の御門に立塞り坐して。御門の開閉を守り。  
荒び疎び來む妖魅どもを。何方よりも入れしと聞な  
く守り賜ふ。櫛磐間門豐磐間門命の神徳を。稱へ奉れ  
る文なり

遠津神代爾二柱相並婆志。御心乎合世賜比御力乎合  
世賜。諸共爾大八洲國修理堅米賜。國作坐大神登稱  
辭竟奉大神等。諸乃病乎治。牟流藥乃方乎母始賜比定賜  
。天下爾所有流顯見青人草乃苦瀨爾落。阿都迎比惱

奉乎助賜比救賜開婆(鈴屋集)

こは。神代の昔に。國土を經營成し賜ひ。また醫藥を起  
し賜ひて。青人草を救け賜ひし。大穴牟遲命少名毘古

那命の神徳を。稱へ奉れる文なり

倭文手纏數爾母不在某我。言麻久毛綾爾恐計度。皇大神  
乃御名波。比古伊佐勢理毘古命亦御名乎。大吉備津日子  
命止申故者。針間能氷河乃前爾忌毘居。天地乃神爾乞  
禱賜比。針間乎道口止爲。此吉備國乃荒夫流神。不奉仕  
入乎言向和賜波武止。天皇乃御子奈賀良所念看。御腰  
爾大刀取佩志。御手爾弓取持之。軍士乎率伊佐奈比氏。背  
向奉流者乎擊賜比和賜布佐麻波。科戸之風爾。天雲乃晴

留事能如久。朝日之影爾。露霜乃消。留事能如久。爾奈母有。邪流其御功。爾與曾利天。稱奉里互。大吉備津日子命止申。

(松屋文後集)

こは。吉備津日子命の神徳を。稱へ奉れる文あり。

高天原爾神留坐須。皇親神魯岐神魯美乃命。以氏皇御孫命波。豐葦原乃水穗國乎。安國止平久所知。食止天下依奉志時。八百萬乃神等乎。天安河乃河原爾神集集賜比。神議議給氏。彼國波。知速振荒振神多在止所聞。食乎誰乃神乎。遣氏加言向萬志止問波。志給布時爾。八意思兼神深久思比。遠久議給比都良久。天安河乃河上乃天岩屋爾座須。伊都之尾羽張神乃御子。建御雷之男神。石拆神根拆神乃御。

子。經津主神是善計牟止。白賜伎。是以二柱大神等神漏岐神漏美乃大命乎。以互出雲國伊那佐乃小瀆爾。天降著給氏。國造良志志大國主神。其御子言代主神乎。神問志問志給氏。現國乃事避志米久那斗神乎。鄉導止爲天。大八洲國中。悉廻給氏。螢那須耀神。狹蠅那須邪伎神等乎。婆神掃掃給氏。語問志石根木根立草乃片葉乎。毛言止氏安國止平久鎮給伎。又畝火乃櫃原宮爾。初國治看志志天皇命乃大和國爾。打入賜志時爾。邪神乃氣吹爾。萍臥座留乎。國平乃橫刀布都魂乎。天降志寄志給荒振神乎。皆切仆志賜伎。又師木水垣宮爾。大八洲國所知看志志天皇命乃大御代爾。毛大坂山乃頂爾。白妙乃大御服乎。著坐白鉢乎。御杖爾。

取坐識賜命波。我御前乎治奉波。汝聞勝知食國平久。大國  
小國事依賜牟止識賜伎。故此大稜威乃高久貴伎御靈布  
由乎辱美氏(神祭式)

由緣句

此の條は物の古事本縁をいへる詞を舉ぐ  
志貴島爾大八島國知志皇御孫命乃遠御膳乃長御膳止  
赤丹乃穗爾聞食須五穀物乎始氏天下乃公民乃作物乎  
草乃片葉爾至萬氏不成一年二年爾不在歲眞尼久傷故  
爾百能物知人等乃卜事爾出牟神乃御心者此神止白止  
負賜伎此乎物知人等乃卜事乎以氏卜止母出留神乃御

心母無止白止聞看氏皇御孫命詔久神等乎波天社國社  
止忘事無久遺事無久稱辭竟奉止思志行波須乎誰神會  
天下乃公民乃作物乎不成傷神等波我御心會止悟奉  
禮止宇氣比賜伎是以皇御孫命大御夢爾悟奉久天下乃  
公民乃作物乎惡風荒水爾相都々不成傷波我御名者  
天乃御柱乃命國乃御柱乃命止御名者悟奉氏吾前爾奉  
牟幣帛者御服者明妙照妙和妙荒妙五色乃物楯戈御馬  
爾御鞍具氏品品乃幣帛備氏吾宮者朝日乃日向處夕日  
乃日隱處乃龍田乃立野乃小野爾吾宮波定奉氏吾前乎  
稱辭竟奉者天下乃公民乃作物者五穀乎始氏草乃  
片葉爾至萬氏成幸閉奉牟止悟奉伎(祝詞式)

こは。崇神天皇の風神の御悟のまゝに。龍田小野に宮  
柱定奉りて。神祭を行ひ奉り賜ひし古事をいへる文  
ふり

神伊佐奈伎伊佐奈美乃命妹背二柱嫁繼給氏國乃八十  
國島能八十島乎生給比。八百萬神等乎生給比氏。麻奈弟  
子爾。火結神生給氏。美保止被燒氏石隱坐氏。夜七夜晝七  
日。吾乎奈見給比會。吾奈妹乃命止申給比支。此七日爾波  
不足氏。隱坐事奇止氏見所行須時。火乎生給氏。御保止乎  
所燒坐支。如是時爾。吾名妹乃命能。吾乎見給布奈止申乎。  
吾乎見阿波多志給比津止申給氏。吾名妹能命波。上津國  
乎所知食倍志。吾波下津國乎所知牟止白氏。石隱給氏。與

美津枚坂爾。至坐氏所思食久。吾名妹命能所知食上津國  
爾。心惡子乎生置氏來奴止宣氏。返坐氏。更生子。水神匏。川  
菜。埴山姫。四種物乎生給氏。此能心惡子乃心荒比會波。水  
神匏。埴山姫。川菜乎持氏。鎮奉禮止事教悟給支(祝詞式)

こは。火神の生坐し、所由より。其の御荒を鎮め奉ら  
む。四種の物の成出でし古事をいへる文ふり

高天原爾神留坐。皇親神漏岐神漏美乃命以氏。八百萬神  
等乎。神集集賜比。神議議賜氏。我皇御孫之命波。豐葦原乃  
水穗之國乎。安國止平久知所食止事依志奉伎。如此依志  
奉志國中爾。荒振神等乎波。神問志爾問志賜。神掃掃賜比  
氏。語問志磐根樹立。草之垣葉乎毛語止氏。天之磐座放。天

之八重雲乎。伊頭乃千別爾。千別爾。天降依志奉支(祝詞式)  
こは。皇孫瓊々杵尊の國君として天降り坐し。其の  
本縁を言へる文なり

高天之原爾神留坐。事始給志神漏伎神漏美命能以  
天之高市爾八百萬神等乎。神集集給比神議議給比  
我皇御孫之尊波。豐葦原能水穗之國乎。安國止平氣久  
所知食止天之磐座放天。天之八重雲乎伊頭之千別支  
爾千別。天降所寄奉志時爾。誰神乎先遣波志。水穗國  
能荒振神等乎。神攘攘平氣武止神議議給時爾。諸神  
等皆量申久。天穗日之命乎遣而平氣武止申支。是以天  
降遣時爾。此神波返言不申。次遣志健三熊之命毛隨

父事。返言不申。又遣志。天若彥毛。返言不申。高津鳥  
殃爾。依。立處爾。身亡支。是以天津神能御言以。更量  
給。經津主命。健雷命。二柱神等乎。天降給比。荒振  
神等乎。神攘攘給比。神和給。語問志。磐根樹立。草之  
片葉毛。語止。皇御孫之尊乎。天降所寄奉支(祝詞式)  
高天能神王高御魂神魂命能。皇御孫命爾。天下大八島  
國乎。事避奉之時。出雲臣等。我遠祖天穗比命乎。國體見  
爾遣時爾。天能八重雲乎。押別。天翔國翔。天下乎見  
廻。返事申給久。豐葦原乃水穗國波。晝波如五月蠅水  
沸支。夜波如火。瓮光神在利。石根木立。青水沫毛。事問天  
荒國在利。然毛。鎮平天。皇御孫命爾。安國止平久。所知坐

之米牟止申天。已命兒天夷鳥命爾。布都怒志命乎副天。  
天降遣天。荒布留神等乎撥平氣。國作之大神乎毛媚鎮  
氏。大八島國現事顯事令事避支(祝詞式)

高天原爾神留坐須。皇親神魯企神魯美之命以氏。皇御  
孫之命乎。天津高御座爾坐氏。天津璽乃鏡劍乎捧持賜  
天。言壽宣志久。皇我宇都御子皇御孫之命。此乃天津  
高御座爾坐氏。天津日嗣乎。萬千秋乃長秋爾。大八洲豐  
葦原瑞穗之國乎。安國止平氣久所知食止言寄奉賜比  
氏。以天津御量氏。事問之磐根木根立知。草能可岐葉乎  
毛言止氏。天降利賜比(祝詞式)  
高天之原爾神留坐須。皇親神漏伎神漏美能命乎以氏。

皇御孫之命波。豐葦原能水穗國乎。安國止定奉氏(祝詞  
式)

右國體の本縁を舉げて。今を明にせむと欲するもの  
は。以上の文に據るべし。其の精粗詳略は。時の宜に隨  
ふべし

感謝句

此の條は。神徳を感謝し奉れる詞を舉ぐ

教悟給比那我良船居作給部禮波。悦已備嘉志美。禮代乃

幣帛乎。官位姓名爾。令捧持氏進奉久(祝詞式)

掛長岐大神乎奉憑天。大幣帛奉出給牟止祈申岐。而爾

祈申志毛驗久。甘雨令零米賜倍利。因歡奈我良散位從五



位下 大中臣朝臣國雄乎差使天。大幣帛乎令捧持天奉  
出賜布(三代實錄)

此某等我醫藥乃業母。大神等乃米具美賜比。知波比將賜  
御靈爾依且志過都事無久。驗波將有登。廣伎厚伎恩賴乎  
恐美恐美母歡奉理宇禮志美奉流(鈴屋集)

故此大稜威乃。高久貴伎御靈布由乎辱美氏(神祭式)

璞能年立歸留朝與里。年能終能夕麻氏。日爾異爾賜波留。  
天津火能恩賴乎辱美氏(私祭要集)

裝束句

此の條は。神殿神門等の裝飾をいへる詞を舉

篤胤我新宅乃。奧乃小床乎。伊豆乃磐境登。掃比清米豆。奧  
山乃賢木乃枝乎。打折持來且。伊豆乃真坂樹登。二所爾刺

分(古學諄辭集)

故神籬結固米。御船代爾載奉。天乃御蔭日乃御蔭覆物  
登絹笠刺羽。幸行能道乃守止楯矛弓矢竝。鳥羽玉能夜  
吉止。人能熟寐爲留亥時爾。人垣立。神主官位姓名。皇神  
乃御尾前爾仕奉里。新宮爾遷奉。氏(神祭式)

千歲將經山松乎。佐根古士廼根古士。邇之。五百枝刺小  
竹取添。兵。御門爾挿立。兵。木綿取垂。兵。端籠乃索引延。氏(神  
事略)

天香山之五百津真賢木矣。根許士爾許士而於上枝取

著八尺勾璫之五百津之御須麻流之玉於中枝取繫八尺鏡於下枝取垂白丹寸手青丹寸手而古事記

奥山乃賢木之枝爾白香付木綿取付而齋戶乎忌穿居竹玉乎繁爾貫垂十六自物膝折伏萬葉集

作行句

此の條は動作をいへる詞を擧ぐ

今奥山乃大峽小峽爾立留木乎齋部能齋斧乎以伐採氏本末乎波山神爾祭氏中間乎持出來氏齋鉏乎以氏齋柱立氏皇御孫之命乃天之御翳日之御翳止造奉仕祝詞式

此の文齋鉏乎以氏の下に穴乎掘利氏などの語を省きて含ませたり

遠山近山爾生立留大木小木乎本末打切氏持參來氏皇御孫命能瑞能御舍仕奉氏祝詞式

こは本文を畧きたるふり是亦打切氏の下に中間乎などの語を含ませたり

五十鈴原乃荒草木根苅掃比大石小石造平互遠山近山乃大峽小峽爾立材乎齋部之齋斧乎以天伐採天本末乎波山祗爾奉祭互中間乎持出來互齋鉏乎以天齋柱立高天原仁千木高知利下都磐根仁大宮柱廣敷立

天倭姬命世記

於土乎波下爾堀返下土乎波於堀返大宮柱太知立奉給比高天乃原爾知木高知奉朝日奈須耀宮夕日奈

須光留宮爾。世長杵爾。常世乃宮爾。靜坐(丹生祝氏文)

如此出波。天津宮事以兵。大中臣。天津金木乎。本打切末打

斷兵。千座置座爾。置足波志兵。天津菅曾乎。本刈斷末刈切

兵。八針爾。取辟兵。天津祝詞乃大祝詞事乎。宣禮(祝詞式)

此の文また打斷兵の下に。中間乎持兵置座乎。造利兵

ぶどの語を省き。取辟の下に。祓比兵ぶどの語を省き

て。含ませたり。これら古文の一格なり

某甲我弱肩爾。太禰取挂天。伊都幣能緒結。天乃美賀祕冠

利天。伊豆能眞屋爾。麤草乎伊豆能席登刈敷支天。伊都閉

黒益之。天能厩和爾。齋許母利兵。志都宮爾。志靜米仕奉兵。

朝日能豐榮登爾。伊波比乃返事能。神賀吉詞奏賜。波久(祝

詞式)

獻供句

此の條は。神に獻る供物の詞を舉ぐ

奉。宇豆乃幣帛者。比古神爾。御服明妙照妙和妙荒妙。五

色能物。楯戈御馬爾。御鞍具兵。品品能幣帛。比賣神爾。御

服備。金能麻笥。金能湍。金能持。明妙照妙和妙荒妙。五色能

物。御馬爾。御鞍具兵。雜。幣帛奉兵。御酒者。厩能閉。高知。厩

腹滿雙兵。和稻荒稻爾。山爾住物者。毛乃和物。毛乃荒物。大

野原生物者。甘菜辛菜。青海原爾住物者。鱸能廣物。鱸能狹

物。奥都藻菜邊。都藻菜爾。至萬兵爾。如横山打積置兵。奉此

宇豆乃幣帛乎。安幣帛能足幣帛止。皇神能御心爾。平久聞

食氏(祝詞式)

獻供の物品は、其の多少によりて異同あれども、まづ。此の文を以て例文とすべし。こゝに、彦神に武器、姫神に機具と。取分けて獻り賜へるは、最嚴重なる御祭なりし故なるべし。さて、其の他は、先御服、次に御酒、次に毛物、次に甘菜、辛菜、次に鱒物、藻菜と次第せり。貢流神寶者、御鏡、御横刀、御弓、御梓、御馬、爾備奉理、御服、波、明多閉照多閉和多閉荒多閉爾仕奉氏、四方國能獻禮留御調能荷前取竝氏、青海原乃物者、波多能廣物波多能狹物、奥藻菜邊藻菜、山野物者、甘菜、辛菜、爾至麻氏、御酒者、饗上高知、饗腹滿竝氏、雜物乎、如横山積置氏、神主爾、某官位

姓名乎定氏、獻流宇豆乃大幣帛乎、安幣帛乃足幣帛登平久安久聞食者登(祝詞式)

こは、御寶御服荷前鱒物甘菜辛菜御酒と次第せり。進流神財波、御弓、御太刀、御鏡、鈴、衣笠、御馬乎引竝氏、御衣波、明多閉照多閉和多閉荒多閉爾備奉利氏、四方國能進禮流、御調能荷前乎取竝氏、御酒波、鹿戸高知、鹿腹滿竝氏、山野能物波、甘菜、辛菜、青海原乃物波、波多能廣物波多能狹物、奥都毛波、邊津毛波、爾至麻氏、雜物乎、如横山置高成氏、獻流宇豆乃大幣帛乎、平久所聞氏(祝詞式)こは、御財御服荷前御酒甘菜辛菜鱒物と次第せり。初穂乎波、千穎八百穎爾奉置氏、鹿閉高知、鹿腹滿雙氏。

汁爾母穎爾母稱辭竟奉牟大野原爾生物者甘菜辛菜青  
海原住物者鱸能廣物鱸能狹物奧津藻菜邊津藻菜爾至  
氏爾御服者明妙照妙和妙荒妙爾稱辭竟奉牟(祝詞式)

右の三文のみならず祝詞式を通考するに皆首に初  
穂乎波と言へば先其の初穂の事を言ひて其の他を  
後に言ひ首に神寶と言へば神寶云々を先とし其の  
他を後にす是其の御祭に就きて主として獻る物を

先とすと見えたり  
奉留物波今年乃初穂乎神部等御戸代乃長田佐奈田  
爾忌麻波理拔取弓齋日爾春伎齋箕爾篋設弓御食爾

母炊伎御酒爾母釀志懸閉高知懸腹滿並山物波毛乃  
荒物和物海物波鱸乃廣伎物狹伎物野物川物種種乃  
物乎八取乃机母繁爾滿備(縣居家集)

御年初將賜登爲而皇御孫命能宇豆能幣帛乎朝日能豐  
逆登爾稱辭竟奉久(祝詞式)

幣帛は獻供の總稱なるをもて御服御食御酒をも兼  
ねて言へるふりさて幣帛乎の下に奉置支氏の四  
字を含めたりこれ祝詞式皆然あれば古文の一格と

見えたり然れども普通には書く方をよしとす  
進幣帛者明妙照妙和妙荒妙爾備奉氏見明物止鏡  
翫物止玉射放物止弓矢打斷物止太刀馳出物止御馬

御酒者ミカケ。鹿戸高知シカノタカチ。鹿腹滿雙シカハラミツフタ。氏米爾毛ウヂメニモ。穎爾毛ヒゲニモ。山爾住物者ヤマニモスモノ。住物者スモノ。毛乃和物毛能荒物モノノニワモノノモアヲ。大野原爾生物者オホノハラニオブルモノハ。甘菜辛菜アマナカラナ。青海原爾アヲシハラニ。住物者スモノ。鱒廣物マスヒロモノ。鱒狹物マスハヤモノ。奥津海菜オクツシノ。邊津海菜ヘノツシノ。爾至万氏爾ニオレマンニ。山之如久ヤマノトシク。几代爾イツクニ。置所足オキシロタラ。氏奉留ウヂノサマツル。宇豆乃幣ウツマノヒ。幣帛乎ヒシラナ。皇神等乃スメガミナリ。御心毛明爾ミココロモアキラカニ。安幣帛乃足幣帛止ヤスヒシラノタラ。平久聞食氏ヒラククニ。祝詞式

此の文見明物。翫物射放物。打斷物。馳出物。鏡。玉弓矢太刀御馬の功用の語を冠らせて。五對に言ひ

ふとして稱へたるは。他に比類ふき文あり。絹波乍編綿波乍結進物波高坏我彌高爾飯乃方毛利加爾清酒乃早爾堅酒乃堅橘乃忽爾餅乃持豆榮爾。鯛乃平爾。鱒乃彌益益爾。鯛乃好美好爾。鮓乃片岡爾。鱒乃

乃播寄豆。薺乃庭佐食須。嚴久聞食志受納給豆拾芥抄。

此の文彌高々方毛利加早堅。忽持豆榮。平彌益々。好美好片岡播寄庭左良須。飯清酒堅酒橘餅鯛。鱒鮓。鮓の縁語を以て言祝ぎ奉れるは。是亦

比類ふき文あり。祝祭ふどの祝詞には。此の體を用ゐるべし。さて考ふるに。此の文は。出雲國造の神賀吉詞

より轉化せしものあり。故に神賀吉詞を左に擧ぐ。白玉能大御白髮坐。赤玉能御阿加良毗坐。青玉乃水江玉乃行相爾。明御神登大八島國所知食。天皇命能手長大御世乎。御横刀廣爾誅堅米。白御馬能前足爪。後足爪踏立事波。大宮能内外御門柱乎。上津石根爾踏堅米。下

津石根爾蹈凝之。振立流事波耳能。彌高爾。天下乎所知  
 食左牟事志太米白鵠乃生御調能。玩物登。倭文能大  
 御心毛多親爾。彼方能古川岸。此方能古川岸爾生立。若  
 水沼間能彌若。叡爾御若。叡坐須須。伎振遠止美乃水乃。  
 彌乎知爾。御袁知坐。麻蘇比乃大御鏡乃面乎。意志波留  
 志天見行事能己登久。明御神能大八島國乎。天地日月  
 等共爾。安久平久知行牟事能志太米止。御禱神寶乎。擊  
 持氏(祝詞式)

祈願句

此の條は。神に祈り願ひ申す詞を舉ぐ  
 皇神等能依左志奉牟。奥津御年乎。手肱爾水沫畫垂向股。

爾泥畫寄氏取作牟。奥津御年乎。八束穗能伊加志穗爾。皇  
 神等能依左志奉者(祝詞式)

此の文義は。御年の皇神等の天皇へ寄せ奉らむ稻穀  
 を。天下の百姓の水に浸り泥に汚れて。勞き作らむ其  
 の稻穀を。八束穗の長く。茂穗の盛に。成幸へ賜ひて。天  
 皇へ寄せ奉らばと。祈はせ賜へるなり。かくて。初の奥  
 津御年乎の下に。天下乃百姓我の六字。伊加志穗爾の  
 下に。成幸開賜比。氏の六字を省きて含ませたり  
 皇神等能寄志奉牟。奥都御年乎。八束穗能伊加志穗爾  
 寄志奉者(祝詞式)

は。本文を畧きたるふり

如此奉者皇神等乃敷坐須山山乃自口狹久那多利爾  
下賜水乎。甘水登受而天下乃公民乃取作禮留與都御歲  
乎。惡風荒水爾不相賜。汝命乃成幸波閉賜者(祝詞式)

此の文。甘水登受の下に。志米の辭ありけむ。脱ちたる  
ふらむ。受而とのみにては。いさゝか事足らざる  
が如し。文義は。今此の如く幣帛を奉る。皇神等の敷  
坐せる山々の口より。落し下し賜ふ谷水を。和水と天  
下の公民等が受賜はりて取作る稻穀を。暴き雨風に  
も遇はしめ賜はずして。豊かに稔りたらば。又秋の祭  
に。其の初穂を獻りて報賽の禮を行はむといふ。ふり  
奉。此字豆乃幣帛乎。安幣帛能足幣帛止。皇神能御心

爾平久聞食。天下能公民能作物乎。惡風荒水爾不  
相賜。皇神乃成幸閉賜者(祝詞式)

こは。本文を省きたるふり  
公民乃人等我。歎支慨牟事乃狀乎。米具久悲久思行坐  
豆。今毛往前毛彌益益爾。嚴乃御靈乎。幸閉坐。彼方乃  
山乃峽。此方乃山乃峽。與利。雲立騰。海神乃與津。官方  
爾。競比和多利。豆。忽爾天津水乎。令降給比。或波神鳴利  
震動。豆。穀。等傷布。蟲乃類乎。毛拂比。賜比。每田乃水口。  
野澤乃澄水多。藝知流。豆。手肱爾水沫。搔垂。向股爾泥。搔  
寄豆。取作留。與津御年乎。始豆。朝夕爾。耘利。培比。勞支作  
留。陸田物等。與利。山縣爾。詩流。青菘之類。爾。至迄。毛。成傷



波受彌榮爾榮。彌繁爾繁。八束穗乃茂穗爾成。幸閉賜比。百姓等我心足比。惠良惠良爾笑比。饒布計里奇之支御靈乎。幸閉賜比。其家内也安久平加爾。夜守日守爾守賜比。矜賜閉止。古學諄辭集。

皇大御神久見。霽志坐四方國者。天能壁立極。國能退立限。青雲能靄極。白雲能墜坐。向伏限。青海原者。棹柁不干。舟艦能至留極。大海原爾舟滿都都氣。自陸徒道者。荷緒縛堅兵。磐根木根履佐久彌。馬爪至留極。長道無間久立。都都氣。狹國者廣久。峻國者平久。遠國者八十網打挂。引寄如事。皇大御神能寄奉波。祝詞式。

此の文首の御名本書に太御の二字なし。今祝詞考に

從ひて補へり。此の文義は天照大御神の天上に坐して。偏く見照し坐す天下四方の國は。天の遠く壁立つ如く。國の遙に退立つ如く見ゆる極み。青雲の遙に靄き。白雲の遠く墜居向伏して見ゆる限り。皇大御神の寄奉り。青海原ハ千萬の貢物を積みたる船の棹柁干す間も無く。其の船の艦先の向ひ到る極み。大海原に間も置かず漕ぎ續けて。皇大御神の寄奉り。陸より往く道は。貢物の荷の緒縛堅めて駄けたる馬の。磐根木根履みさくみ往く。其の馬の爪の向ひ到る限り。道の長手に斷間無く立ち續けて。皇大御神の寄奉り。又狹き國は廣かるべく。峻しき國は平坦なるべく。皇大御

神の寄奉り。又遠き國ハ。數條の綱を打ち掛けて。引寄  
する事の如く。皇大御神の寄奉らばと祈はせ賜へる  
あり

馬爪至限鹽末至限。天雲乃可血立限依奉給比。遠國乎  
波。千尋田久繩乎以天。懸依給比。荒國乎波。太御佩刀以  
天。平給比。白雲乃退居。青雲乃枯引限。物代乎依奉給比。  
曳立者天止等久。打積者國止等久。谷古久乃佐度限。物  
代乎依奉給止申須(丹生祝氏文)

國者限退立。天雲者限壁立。青雲者限棚曳。白雲者限向  
伏。日正從。月正橫。將聞通焉。陸路者限馬蹄之所詣。海路  
者限船艫之所泊。將聞通焉云々。石根木立草之片葉雖

踏碎英雄聞將死者。一時死之。故雖打置者如國之廣。曳

立者如高天。罪無隱遁申(新撰龜相記)

如此仕奉爾依氏。今母去前母。天皇我朝廷乎平久安久。足  
御世乃茂御世爾齋奉利。常磐爾堅磐爾福閉奉利。預而仕  
奉流。處處家家王等。卿等乎母平久。天皇我朝廷爾。伊加  
志夜久波叡能如久仕奉利。佐加叡志米賜登(祝詞式)

此の文義は此の如くして。仕奉るに依りて。現今も將  
來も大朝廷を平かに安かに。事足り物備り。嚴しく茂  
しき御世に齋ひ鎮め奉り。常磐に易らぬ御世。堅磐に  
動ふき御世に守福へ奉り。又御祭に預りて仕奉れる。  
處々の官人。家々の主等。卿等をも。障る事無く恙し

き事無く。大朝廷に木々の繁榮ゆるが如く。立榮え仕奉らまめ賜へご云ふふり

獻流宇豆乃大幣帛乎。平久所聞。天皇我御世乎。堅磐爾常磐齋奉利。伊賀志御世爾。幸閉奉氏。萬世爾御坐令在米給登(祝詞式)

參集氏仕奉親王等王等臣等百官人等乎。毛夜守日守爾守給氏。天皇我朝廷爾。彌高仁彌廣爾。伊賀志夜具波江能如久。立榮氏令仕奉給登(祝詞式)

これらは。本文を畧きたるふり  
御壽乎手長乃御壽止。湯津如磐村常磐堅磐爾。伊賀志御世爾。幸閉給比。阿禮坐皇子等乎。毛惠給比。百官人等天下

四方國能百姓爾至萬天長平久。作食留五穀乎。毛豐爾令榮給比。護惠比幸給止(祝詞式)

此の御壽云々の語は。祝詞式の中。いづれにもあること。ふく。大嘗鎮魂の詞にさへ見えざるを。此の月次神嘗にのみ此の語あるは。疑しき事なり。よりて。普通に之を移さむには。祈年祭神祇官八座の神等の前に白す詞。また伊勢太御神の大前に白す詞に倣ひて。皇御孫命乃御世乎。手長乃御世登常磐爾。堅磐爾齋奉利。茂御世爾。幸奉利給比。といふべし  
大宮賣命登御名乎。申事波。皇御孫命乃同殿能裏爾。塞坐氏。參入罷出人能。選比所知志。神等能伊須呂許比。阿禮比

坐乎言直志和志坐氏皇御孫命朝乃御膳夕乃御膳供奉  
 流比禮懸伴緒緹懸伴緒乎手躋足躋不令爲氏親王諸王  
 諸臣百官人等乎己乖乖不令在邪意穢心無久官進米爾  
 進宮勤爾勤之米氏咎過在乎波見直志聞直坐氏平良氣  
 久安良氣久令仕奉坐(祝詞式)

此の文義は此の神の大宮内に立塞り坐して出入る  
 人を監察して其の可否を撰び荒ふる神の有らむを  
 ば言直し言和し賜ふを始め大御許に仕奉る伴男等  
 親王諸王諸官の人等を一つ心に睦和して過つ事  
 無く漏るゝ事無く事美しく事幸く仕奉らしめむと  
 守賜ふ神徳を稱へ奉れるふり

櫛磐牖豐磐牖命登御名乎申事波四方内外御門爾如湯  
 津磐村久塞坐氏四方四角與利疎備荒備來武天能麻我  
 都比登云神乃言武惡事爾相麻自許利相口會賜事無久  
 自上往波上護利自下往波下護利待防掃却言排坐氏朝  
 波開門夕波閉門氏參入罷出人名乎問所知志咎過在乎  
 波神直備大直備爾見直聞直坐氏平良氣久安良氣久令  
 奉仕賜(祝詞式)

此の文義は此の神の大宮の四方の御門に立塞り坐  
 して四方四隅より荒び疎び來む禍事を待防ぎ又朝  
 夕の御門の開閉さては出入る人々を監察し咎過あ  
 らむをば見直し聞直し賜ひて事幸く仕奉らしめ賜

ふ神徳を稱へ奉れるふり。

右の二文は。本來神徳を稱へ奉れる文ふり。されど之を祈願に轉用すべき文ふれば。此の條に擧げたるふり。いづれの神の御前にまれ。家内上下相睦び。家の事家の業を。彌勤に勤め。彌進に進め。災難を防ぎ。幸福を招き。繁榮を祈り奉る祝詞をば。此の二文によりて綴り成すべし。但し。御門御膳の御の如き尊稱言。また朝廷へ關る語どもは。勤めて省くべきふり。

此乃敷坐大官地。底津磐根乃極美。下津綱根。波府虫能禍無久。高天原波。青雲乃霽久極美。天乃血垂。飛鳥乃禍無久。掘堅多留柱。桁梁戸牖乃錯比。動鳴事無久。引結幣魯葛目。

能緩比。取葺計島草乃噪岐無久。御床都比能佐夜伎夜女能。伊須須伎。伊豆都志伎事無久。平氣久安久奉護留(祝詞式)

此の文義は。皇神の敷坐す大官の地下は。底津磐根の極みまで。下津綱根を昆虫の蝕損ふ事ふく。高天原は。青雲の霽く極まで。天の血垂に飛鳥の災する事無く。安かに平かに護奉り。堀堅めたる柱の動くこと無く。桁梁戸牖の錯の鳴る事無く。平かに安かに護奉り。引結べる綱根の緩無く。取葺ける草の噪無く。平かに安かに護奉り。御床都比の騒きの恙しき事無く。夜目の伊須々伎の恙しき事無く。平かに安かに護奉り賜ふ。

と云ふふり

此の文また。本來室祝ムロカキの文なり。されども。祈願に轉用すべき文ある故に。此の條に擧げたるふり。地鎮。新殿の諸祭の祝詞は。此の文体に准據すべし

第三章 文例

年始祝詞

(神事畧)

挂卷母畏伎。某社爾。鎮座須。吾皇神乃大前爾。恐美恐美母。白久拜發千歲將經山松乎。佐根古士。廻根古士。廻之。五百枝刺小竹。取添兵。御門爾。插立兵。木綿取垂兵。端籠乃。索引延氏(裝束)奉留幣帛波。千世乃。若水餅鏡。和稻麩稻。御酒方。白木黒木爾。屠蘇酒。袁母取。立豆。奉留雜物。袁。大御心母。

宇良宜。豐明爾。所聞食兵(獻供)。天日嗣。八。日月乃共無動久。恒母奉祈。天皇命乃。太御壽袁。足長乃。大御命刀。堅磐爾。常磐爾。幸奉里。親王諸王。諸臣。百官人等。此郷乃。刀禰男女。天下四方國乃。公民爾。至麻泥爾。平久安。久守福反。給反刀(祈願)。頸根突拔。豆。新年乃。始乃。朝日乃。豐榮升爾。稱言奉竟。刀申拜結尾

○挂卷母畏伎とは、詞に掛けて申すも恐れ多しといふ意なり○千歳將經山松乎佐根古士廻根古士廻之氏とは、千年も生榮えて居るべき山の松を根引にせよといふ意なり○五百枝刺小竹とは、枝の數の多く、さし出でたる竹をいふ○木綿取垂とは、木綿を附けて下らすることをいふ、木綿といふ穀の木の皮にて作れるものをいふ○端籠乃、索引延氏といふ、標繩を引張るをいふ○和稻麩稻といふ、精米粃をいふ○白木黒木といふ、白と色の酒、黒と色の酒をいふ○大御心母、宇良宜といふ、神の御心も愉快に

思食してといふ意なり○豊明爾所聞食氏とは、神の御顔も赤らむまで、おわがり遊ばされてといふ意なり○郷乃刀禰とい、もとの庄屋、今の村長の如きものをいふ○頸根突振豆とい、頸を地に衝入るゝはと平伏してといふ意なり

同

(祭文例)

挂卷毛恐伎。吾大神能大前爾。恐美恐美母白久。發詞新伎。年能新伎月能新伎日能朝日能豐榮登爾拜氏。仕奉流大御饌大御酒袁皇神能御心爾。平久安久。赤丹能穗爾聞食登白須獻供如此仕奉爾依氏。今母往前母皇御孫命能御世袁手長能大御世登湯津石村能如久伊波比奉理。茂御世能足御世爾福閉奉理。仕奉流親王諸王諸臣百官人等袁彌高爾彌廣爾伊加斯八桑枝能如久令立榮給比。天下四方國乃公民等袁守給比惠給閉登(祈願)恐美恐美母稱

辭竟奉久登白拜結尾

○新伎月能新伎日とは、一月一日の事にて、新年といふ詞より續けていへるなり、新をアタラシといふの實は古言に非ず、中古以來の詞なれば、祝詞には好ましからぬと、如此しひても誤といふには非ず、一月一日と書さず、ハロメノツキノハシメノヒと讀むも可なり○赤丹穗聞食とは、前文の豊明爾所聞食といへるにおなじ○今母往前母とは、目前も今後もといふ意なり○皇御孫命能御世袁、手長能大御世登、湯津石村能如久伊波比奉理とは、今上天皇の治め給ふ御代を、長久に動さなき様に御守り下されといふ意なり、湯津石村とは、五百箇餘群の義なり○茂御世能足御世爾福閉奉理とは、嚴めしく盛なる御代の、物の満ち足りたる御代となる様御守り下されといふ意なり○伊加斯八桑枝能如久令立榮給比とは、木々の繁り榮ゆるやうに、繁榮ならしめ給へといふ意なり

紀元節

(神宮明治祭式)

度會乃宇治乃五十鈴乃川上乃下津磐根爾大宮柱太敷

立。高天原爾千木高知氏。皇御孫命乃稱辭竟奉留。挂萬久  
 毛畏伎。天照座皇大神乃大御前乎。慎敬比恐美恐美毛白  
 左久發詞。高天原爾神留座皇親神漏岐神漏彌命以互。皇  
 御孫命乃御世御世。大八洲國將知次登。天津神乃御子隨  
 毛三種乃神寶乎授給比。言壽給志任爾。畝火乃檀原乃官  
 爾天下所知志天皇乃始氏。帝位所知食志日登。中今乃大  
 政乃始爾當氏座波。此太祖天皇乃廣伎厚伎御德乎。重  
 美辱美座氏奈毛。此乃御祭乎興給氏。永代乃御典登定  
 給倍留任爾。今日乃生日乃足日爾。齋乃壽辭乎稱辭竟奉  
 良久登奏須由緣禮代乃。大御食大御酒。海川山野乃種々  
 乃物乎。横山乃如久置足波志。氏進留狀乎。平介久安介久

所聞食氏(獻供)皇御孫命乃大御壽乎。手長乃大御壽登。常  
 磐爾堅磐爾齋奉利伊賀志御代爾幸給比。阿禮座左牟皇  
 子等乎毛惠給比。百官人等天下四方國乃公民爾至萬氏。  
 長久平介久。夜守日守爾護惠美幸給倍登(祈願)恐美恐美  
 毛申須結尾

○下津磐根爾大宮柱太敷立、高天原爾千木高知氏は、神殿の柱を、地の底まで、深く  
 突立て、神殿の千木を天上まで高くさし出して、高大に堅固に神殿を造り奉りて  
 といふ意なり、千木とは、家根の破風の上に、兩股になりて差出でたる木のとなり○  
 高天原爾神留坐、皇親神漏岐神漏美命以互とは、上天に御留り遊ばされたる、天皇  
 の御先祖の神様の勅定にてといふ意あり○畝火乃檀原乃宮爾天下所知志天皇  
 とは、神武天皇の御事なり○中今とは、唯に今の意なり○齋乃壽辭とは、賀辭の意  
 なり○夜守日守とは、晝夜を分たず御守り下されとの意なり



祈年祭

(祭文例)

挂卷母恐伎。吾大神能大前爾。恐美恐美母白久。發詞大神  
 袁今日能吉日爾。稱辭竟奉良久波。大神能氏子袁始氏四  
 方國能百姓等賀。手肱爾水沫搔垂向股爾。泥搔寄氏取作  
 良牟奧津御年袁。惡風荒水爾令相給波受。八束穗能茂穗  
 爾成幸閉給比。陸田種子等甘菜辛菜爾至流麻傳不成傷  
 布事无久。彌榮爾令榮給比。彌足比爾令足給閉登(祈願)大  
 前爾。御食御酒居竝稱辭竟奉久登白。獻供挂卷母恐伎大  
 神。祈白須母驗久。神隨成幸閉給波婆。初穗袁婆。秋祭爾獻  
 牟登(感謝)恐美恐美母白給久登白。結尾

○手肱爾水沫搔垂とは、手の肱から、水の泡が垂れるとにて、苗を植るなどする時の

さまをいふなり○向股爾泥搔寄氏とい、相向へる両股に、泥を付るとにて、田の草取  
 などする時の様子をいふなり、此の兩句にて、苗をおろすより刈取るまで勞さ作る  
 事を含めたる對語なり○奧津御年の、稻なり○八束穗能茂穗とは、幾握みもある長  
 さの熟稔りたる稻穂と云ふ意なり

除蝗祭

(神祭式)

此能所乎。伊豆能磐境登掃清氏。神籬立氏。招請奉里。令坐  
 奉留。御年神。大地主神能御前爾。白久。發詞。神代乃往昔。大  
 地主神御田作良志々。時。田人爾牛穴乎。令食給比伎于時  
 御年神能御子。其田爾至氏。御饗爾。唾氏還座氏。父大神爾  
 其狀乎。告給伎。於是御年神怒座氏。其營田爾。蝗乎放給比  
 志加婆。苗葉忽爾。枯損禰氏。篠竹成枯凋伎。故大地主神。片  
 巫肱巫乎志氏。占波志米給比志時。是波御年神能崇奈

里。故白猪白馬白鷄乎獻氏。其怒乎解給閉登占相奉伎。故  
 其占相能隨爾行給布時爾。御年神答給久。實爾吾御心奈  
 里。故麻柄乎以互持爾作氏持。其葉乎以互拂。天押草乎以  
 氏押烏扇乎以氏扇。仍不去婆。溝口爾牛穴乎置。男莖形  
 乎作添氏。惹子山椒吳桃葉及鹽乎。其畔爾班置給閉登言  
 教悟給伎。是爾大地主神其教能隨爾行給志加波。苗葉復  
 茂氏。年穀豐稔伎。由緣故此古事爾依氏。御年皇神能御前  
 爾。絹布乎。白猪白馬白鷄。三種能代爾取易備奉氏。御祭仕  
 奉留狀乎。平久所聞食氏(獻供)蝗能災乎拂比除伎。奥津御  
 年乎。八束穗能茂穗爾成幸閉給閉登(祈願)鹿自物膝折伏。  
 鵜自物頸根突拔氏。稱言竟奉久登白。結尾  
 拜詞

○伊豆能磐境登掃清氏とは、よの所を掃ひ清めて、清淨なる場所としてといふ意  
 なり、磐境は、磐船などの磐にて美稱言あり○神籬立氏、招請奉里令坐奉とは、神の  
 鎮坐すべき御坐を設けて、それに、神様を御招き申してといふ意なり、神籬とは、御  
 室城の義なり○片巫 眩巫とは、トをする巫の名なり○麻柄乎以氏持爾作  
 氏持とは、麻柄にて持といふ物を作り、其れにて 蝗を持落すべしとの意なり、  
 持の糸を巻く道具なり、此より以下四句皆禁厭の術あり○其葉乎以氏拂とい、麻  
 の葉にて持落したる蝗を拂ひ取るべしとの意なり○天押草乎以氏押とは、天押  
 草といふ草にて、蝗を田の外へ押出すべしとの意なり、天押草とは、玄參のよとなり  
 ○烏扇乎以氏扇とは、烏扇といふ草にて、田の外へ押出したる残の蝗を扇き出す  
 べしとの意なり、烏扇は、俗にヒアングといふものなり○惹子ハ、俗に四國麥、鳩麥  
 といふものなり○鹿自物膝折伏とい、鹿は、膝を折りて伏すもの故に、それが様に  
 拜禮してとの意なり○鵜自物頸根突拔とは、鵜は、魚を取らむとて、水中に頸を突入  
 る、物故に、その様に平伏してとの意なり

○大祓祝詞

(神社祭式)

掛卷母 恐伎。某神社乃御前爾。祠官苗字名 恐美 恐美 毛 白  
 左久 拜發 此縣乃官人。又大神爾。仕奉留神官等乎。始互。敷  
 坐留里々乃公民等。我過犯氣牟。雜々乃罪事乎。今年乃六  
 月乃今日乃夕日乃降爾。祓物乎置座爾。置互。祓清牟留事  
 乎。祓處乃神等爾。神議々給比。諸人乃枉事罪穢乎。祓給比  
 清給倍止。乞祈奉留事乃由乎。彌高爾聞食世止(祈願) 恐美  
 恐美 母 白 須 結 尾

○置座とは、贖物を載せ置く臺をいふ。○彌高爾聞食とは、よく御聞取下されといふ意なり。

官地鎮謝祭

(祭文例)

掛卷母 畏伎。生井神。榮井神。綱長井神。阿須波神。波比岐神  
 乃大前爾。恐々毛 白 久 拜發 詞 皇神等乃敷坐此大官所乎。今  
 毛往前毛。彌益々爾守 幸 給 氏。千代萬代毛平久安久。下  
 動美寄來牟地震乃災无久。大雨零利水溢留登毛。大地乃  
 岩崩傷布事无久。堅石爾常石爾。守給 幸 給幣登(祈願)禮  
 代乃幣帛乎捧持氏(獻供) 恐美 恐美 母 白 拜結 尾

○禮代乃幣帛とは、御禮の捧物といふ意なり、禮代を、禮自、禮自利ともいふなり、シロは、シ又シリと同語にて、其の物質をいふ

地鎮祭

(神事畧)

此地乎 宇斯吐坐須。大地主神。廼御前七。謹々三母申佐久  
 拜發 詞 此所爾 某官位姓名乃家將作為氏(由縁) 禮代乃御酒

御饌奉置<sub>（獻供）</sub>乞祈白事波。此踏平均須土乃平可爾。突  
 堅牟累磐根乃動事無久。此造良牟家廼棟門。廣久高久令  
 榮炫毘古能神乃荒毘給事无久。守幸給反刀乞祈白事乃  
 由乎。神隨母所聞食氏。相宇豆那比給反刀<sub>（祈願）</sub>惶々美毛  
 言<sub>（結尾）</sub>拜詞

○炫毘古乃神とは、火の神の御事なり。○相宇豆那比給反とは、祈り申す事を、神々の  
 御納受遊ばされよといふ意あり

同

（神祭式）

掛卷母畏支。大地主神。埴山姫神。産土神。御前爾白久<sub>（拜發）</sub>  
 此乃新室敷居牟此地乎。齋鋤齋鋤乎取持天。石切平均地  
 曳平均掃清氏<sub>（作行）</sub>家居乃地登。齋定牟止爲氏<sub>（由縁）</sub>奉留

幣帛波。由紀乃御食。御酒波。甕戸高知。甕腹滿並互。山野乃  
 物波。甘菜辛菜。青海原乃物波。鱒廣物鱒狹物。與津海菜邊  
 津藻菜爾至迄爾。如横山置足波志互。奉留幣帛乎安幣帛  
 乃足幣帛止。皇神乃御心毛平介久所聞食豆<sub>（獻供）</sub>此乃新  
 墾家地乃底津磐根乃極美。下津網根。波府虫能禍無久。夜  
 守日守爾護給比矜美給閉止<sub>（祈願）</sub>鹿自物膝打伏。宇自物  
 頸根突拔互。稱言竟奉久止白須<sub>（結尾）</sub>拜詞

新殿祭

（私祭要集）

此能所爾神籬立氏。招奉里令坐奉留。挂卷毛畏伎。屋船命  
 能御前爾白久<sub>（拜發）</sub>今奧山能大峽小峽爾立留木乎。齋斧  
 乎以氏伐取。本末乎婆山神爾祭利互。中間乎持出來氏。齋

鋤乎以氏齋柱立氏(作行)其能神能天能御翳日能御翳登  
 造仕奉禮留瑞能御殿乎天津奇護言乎以氏言壽鎮白久  
 此能敷坐新宮地能底津磐根能極美。下津綱根。波府虫能  
 禍无久。高天原波青雲能靄久極美。天能千垂。飛鳥能禍无  
 久。堀堅多留柱。桁梁戸。扇能錯比。動鳴事无久。引結倍留網  
 目能緩比。取葺留草能噪伎无久。御牀都比能佐夜岐。夜女  
 能伊須々伎伊豆都志伎事无平久。安久奉護留神能御名  
 乎白久。屋船久々。遲命。屋船豐宇氣姬命登御名乎。婆稱奉  
 里氏。今如此造仕奉禮留御殿乎。堅磐爾常磐爾奉護里奉  
 福良須爾依氏(神德)進留幣帛波由紀能御食。御酒波。瓊能  
 邊高知瓊能腹滿雙氏。山野能物波甘菜辛菜。青海原能物

波。緒能廣物緒能狹物。奥津毛波邊津毛波爾至麻氏爾。雜  
 々物乎。横山能如久。置足波志氏奉留幣帛乎。安幣帛能足  
 幣帛登。平久所聞食登(獻供)十六自物膝折伏。宇事物頸根  
 突拔氏。稱言竟奉久登白。結尾  
 拜詞

○天能御翳、日能御翳登造仕奉禮留、瑞乃御殿とは、天日を蔽ふ爲に造り仕奉りたる、  
 美麗なる宮殿といふ意なり○天津奇護言乎以氏、言壽鎮白久とは、天上におさて  
 事始め給へる、靈妙なる祝詞を以ちて、屋船の神の、無事に安穩に鎮坐さむ事を  
 祝ひ奉るとの意なり○新宮地能底津磐根能極美、下津綱根波府虫能禍无久とい、地  
 の下り、岩石のある邊まで結び固めたる、床下の綱を、虫の喰損ふ事なくといふ意  
 なり○高天原波青雲能靄久極美、天能千垂飛鳥能禍无久とい、天上の、蒼空に至るま  
 で高くさし出せる烟出に、鳥の禍するとなくといふ意なり○堀堅多留柱、桁梁戸  
 扇能錯動鳴事无久とは、堅固に掘立たる柱の動くとなく、又桁梁や戸や扇など

の木と木と行合ひたる所の、鳴るとなくといふ意なり○引結倍留綱目能緩比、取尊留草能噪彼无久とは、柱桁なを結び堅めたる綱の緩むとなく、屋根を聳らたる草の亂るゝとなくといふ意なり○御牀都比能佐夜岐、夜女能伊須々伎伊豆都志伎事无とは、晝の間に、神殿の御床の邊に物喧しきとの恙しきとなく、夜眠れる間に、物驚くとの恙しきとなくといふ意なり

遷宮祝詞

(神祭式)

此能所乎宇斯波伎坐皇神乃御前爾稱言竟奉久止白須  
拜端皇神乃志津宮登靜坐牟御殿毛璞乃年乃經往波石  
上布留備荒爾荒多里是以互宮地乎掃清氏下津磐根爾  
宮柱太敷立高天原七千木高知互遠世爾神佐備往牟瑞  
能御殿仕奉支由縁故神籬結固米御船代爾載奉氏天乃  
御蔭日御蔭覆物登絹笠刺羽幸行能道乃守止楯矛弓矢

竝氏鳥羽玉能夜吉止人能熟寐爲留亥時爾人垣立氏(裝  
束)神主官位姓名皇神乃御尾前爾仕奉里新宮爾遷奉氏  
(作行)奉留幣帛波明妙照妙和妙荒妙爾由紀乃御食御酒  
波厩邊高知厩腹滿雙互山野乃物波甘菜辛菜青海原物  
波鱒廣物鱒狹物奥津海菜邊津海菜爾至迄爾如横山置  
足波志豆奉留幣帛乎安幣帛乃足幣帛止平介久所聞食  
豆(獻供)天地日月止共爾彌遠長久鎮座登(祈願)十六自物  
膝折伏鵜自物頸根突拔互稱言竟奉久止白須結尾

○志都宮の、靜かに安かなる宮をいふなり○儼の、年の枕詞なり○石上は、布留の枕詞なり、○絹笠の、華蓋にて、絹をもて張りたる傘なり○刺羽の、團扇の長さ者にて、物を蔽ひ隠すものなり○鳥羽玉の、夜の枕詞なり○人垣とは、垣のやうに

人の並立つをいふなり○御尾前、神様の前後のにて、即ち行列の中にて、神靈  
を入れたる船代の前と後とをいふなり

遷座祝詞

(秋屋文章)

此岡爾年經留松乃高々爾神佐備座須鳥賀啼東照神社  
乎假乃神殿刀合世齋比鎮米奉里豆我徒賀仰伎乞祈持  
伊都久天之御中主神高皇産巢日神神皇産巢日神天照  
大御神刀御名波申志豆稱言竟奉留四柱乃大神乃大前  
爾齋主神田神社祠官權中教正本居豐穎畏美畏美毋申  
佐久發端初我大神乃御前乎齋比奉里神殿仕奉里志事  
波天下乃神官僧侶等諸各々教導職爾任給比下志給比  
授給開留三條乃教憲乎頂爾捧持都々專人民乎志教導

久爾依豆天地乎造里給比又人波更奈里萬物乃造化乃  
大元刀座須大神乎婆拜美奉里乞祈奉良受豆波得在良  
奴事刀相議里事定米豆神殿波仕奉里伎如是仕奉里豆  
有都留乎迦具都知乃神乃荒備刀去年乃一月一日乃曉  
乃雲刀烟刀消失奴留賀故爾辛久御靈代乃限取出奉里  
豆一度波芝大神宮乃内爾座奉里志乎後爾奈母又是乃  
神殿内爾波鎮米奉禮留如是豆新宮作里仕奉良牟刀爲  
豆今年乃三月一日與里事始米豆波在都留間爾今度  
恐伎也天皇賀大命以豆神官僧侶乃徒賀教業波各々其  
道乃隨々別爾導伎諭志教院乎母別爾作里設與刀宣志  
給比仰世給比奴故此御前乃事母神官僧侶等相共爾持

伊都伎奉良牟事。布佐波受之。在禮婆更爾專議里事定米  
 互。既久作里設多留。神道事務局乃內爾遷志座世奉留刀。  
 今年五月十日乃。今日乃朝日乃豐榮登爾。御靈代波戴持  
 互。是乃假乃御座乎出立志米奉良牟刀須。由緣故此乃  
 狀乎平介久安介久聞食互。神官教導職等賀忌回里清回  
 里護良比送里御供仕奉留隨爾。出座須道乃限々恙牟事  
 無久障留事無久。打靡久錦乃御旗高々爾擊持都五百枝  
 眞賢木廣里幸世刀(祈願)惶美惶美母白須。拜結尾  
 鎮座祝詞  
 (秋屋文章)  
 神官賀太玉串刀持忌麻波里持清麻波里捧奉留奧山乃  
 五百枝眞榮木上枝爾眞玉乎挂介中枝爾鏡乎挂介下枝

爾劍乎挂介挂麻久母文爾畏伎久方乃別天神天之御中  
 主大神高皇產靈大神神皇產靈大神又天皇乃加夫呂刀  
 高天原知食須天照皇大神四柱乃命乃宇豆乃大前爾齋  
 主神田御社祠官權中教正本居豐穎慎美敬比惶美惶美  
 毛白佐久拜發詞言佐閑久支那人乃言爾云良久兄弟波垣  
 本爾爭問村猶他人爾知良衣自刀須刀云里狩人乃手飼  
 乃犬乃友抒知母奧山乃狩場爾互波互爾相守里相助久  
 留事乃如久神官僧侶等諸固與里其尊比與會留道異爾  
 教乃筋波違問禮抒曾々母々何禮乃人可皇大御國乃公  
 民奈良邪良牟誰也志人可皇朝廷乃御臣奈良邪良牟今  
 外國乃人々盛爾參來交里互世中乃人心智久明介久開



介行久乃波爲禮抒吉事爾禍事伊都久世乃慣止善久爲  
 受波異志伎教言母入來牟時爾志有禮婆彌我大御國乃  
 御手風乎天乃波士弓振起志天下公民等乃心々乎眞鹿  
 古矢乃只一筋爾教閑導伎於母牟久留古會中今乃御世  
 爾在互專勉米勤牟倍伎事奈良米刀相議里相契里誓比  
 志隨爾皇賀大御言以互各々教導職爾任賜比三條乃教  
 憲乎下志給比授介給閑留任々神官僧侶乃徒賀神垣爾  
 引也注連繩一筋爾契結閑留眞心乃赤心爾寄集比互事  
 議里定牟留所刀大教院乎取設志與里恐伎也我大神四  
 柱乃大前乎母齋奉里治奉里白妙乃小忌乃衣爾墨染乃  
 袖差交互玉串乃取々爾拜美奉里互在都留乎今度天皇

兼大命以互定給比宣別給比志事乃旨乎畏美奉里承給  
 波里互神乎敬比國乎愛比人刀在倍伎道乎明良米朝廷  
 乎重美須留道乃信波固與里變留倍伎事那良禰杼母水  
 鳥乃教場波各々別爾取設介行波牟刀爲留賀故爾是乃  
 日比谷乃所乃神道事務局乎以互今與里後神道乃大教  
 院刀定米國々縣々乃中少教院乎母同志形爾分局支局  
 乃志專純粹爾惟神乃美志御教波布施佐牟刀是乃東京  
 爾伊寄集閑留皇大神宮祭主大教正正二位三條西季知  
 乎始米互大中少乃教正等相議里相談良比互宮々爾母  
 乞申志事既爾定里奴由緣故今日乎生日乃足日乃吉時  
 乃卜定米互遷座乃御祭仕奉留御供乃神官波大路母狹

爾。鳧成並列里。吹成也。笛乃調乃。亂留々。筋無久。竹芝乃浦。乃八重波。志々久々爾。送里奉里。今是乃。與床乃伊豆乃。眞床乃。假乃御座爾。鎮米奉留刀爲豆(作行)奉留大御酒波。行回留庭乃池水滿多々。閑大御饌波。島回爾。咲留白躑躅。白介盛上。緒廣物。緒狹物波。朝市爾。海人賀運閉留鮮介伎。乎撰里。甘菜辛菜波。夕川爾。少女賀洗布清伎乎撰留山乃。物野乃物種々。御水御鹽爾。至留麻傳。忌机乃上母多和々。爾擊介奉里豆(献供)拜美奉里乞祈奉留稱言乃。漏脫牟事乃。乃在留乎婆。見直志聞直志給比豆。今與乃後。此道乃立榮衣行牟事波。久方乃天乃香山。高々爾取與呂閉留事乃如久。此教乃廣久至里渡良牟事波。大海原沙乃八百會。遙々

爾立回禮留事乃如久。是乃我大御國內波更那里靈幸布御乃神傳訛里混問傳布留。遠々志常世乃國乃人皆毛。後遂爾不二乃高山。高々爾仰伎尊比寄來牟賀禰。天下乃教導職等諸乃。赤心爾勤志美勉牟留乎婆。惠美給比助介給比。黑心爾痴禮怠良牟乎婆。咎米給比罰米給問刀(祈願)鹿自物膝折伏世。島津鳥頸根突拔豆。畏美畏美毛。祈乃禮備乃稱言竟奉良久刀申須(結尾)拜詞

○神官我云々下枝爾劔乎挂介とは掛といはむ料の序詞なり○相助久留事乃如久といふより、下文の相議里相契里に續けて見るべし○白妙乃小忌乃衣爾墨染乃袖差交豆とは、神官に僧侶のいりまじりてと云ふ意を、それらの服を以ちて綾なせるなり、白妙乃小忌乃衣は白き齋服をいひ、墨染の袖は僧侶の法衣をいふ

造竟廊石垣穗詞

(松屋文後集)

黑田廬戸官爾座。天下所知食氣留。天皇乃御子奈賀良  
 爾不奉國乎治爲止。依左志賜比乃麻爾麻爾。大御身爾太  
 刀取帶之。御軍士乎安登毛比賜比吉備國。遠言向和賜之  
 與利。此處爾神止毛神止伊都支祭禮流。我大吉備津日子  
 命乃大前爾申久。拜發詞中山乃下津岩根爾真木柱太敷多  
 天。細谷川乃奈我禮爾都豆支互帶乃如久廻禮留瑞能廊  
 由由斯久荒奴禮婆。我輩歎愁而國中能人人爾加多良比  
 天。半波新爾造奴禮行。事竟受之互。是能年乃年已呂在都  
 留乎。八多部乃里能龜山道本翁。去年乃秋心乎起志互。山  
 田乃邑乃邑長那理之菊池親芳。老年老天。今者間能人遷在  
 遠伊佐奈比須須米奴。此親芳老翁。此里乃真野守貞翁。鳥

羽自馨翁止。言合勢力乎合世天。美麗久造利奉禮里加此  
 須牟也計久其事竟奴流者。四人乃翁夜中曉時止休息無  
 久。淨明心。正直言以而。諸人乎伊佐奈布爾依天之皇大神  
 乃敷座留。里能五百里墜事無久。民等參來集比。真木佐苦  
 檜乃婦手乎能勢多流舟波。棹柁不干海川爾滿都都氣石  
 積多流車者。長道無間久立都都氣氏。麓乃野方邇如橫山  
 積置豆。造成多留。故爾奈母在計留。由緣如此造成都留爾  
 依互。今年文政乃元能年乃八月五日乃日乎。生日能足日  
 止撰定互。由貴能御酒御贄雜物乎。皇大神乃大前爾置足  
 波志互(獻供)宮司祝部等言壽白志。後爾宇事物頸根衝拔  
 互。祈禱申事者。仕奉留吾輩。已乖乖不令在。護惠比幸倍給

比。廊石垣奈爾止造留爾。物獻利志人人。其事取志四人乃翁參來集比之民乎母平氣久木棉花乃佐加叡志米賜倍止(祈美)恐美恐美申拜結尾

○黒田廬戸宮爾座豆天下所知食氣留天皇の孝靈天皇の御事なり○御子奈賀良爾とは、皇子にて御座るまゝにといふ意なり○安登毛比賜比とは、軍勢を引卒てといふ意なり○眞木佐苦とは、檜木の枕詞なり○檜乃嬌手とは、嬌の假字にて、稜爪のる檜木といふ○己乖々不令在とは、銘々勝手にならず、一致和合する様にといふ意なり○木棉花乃とは、木綿もて作れる花にて、榮の枕詞なり

造竟御廐祝詞

(松屋文後集)

我皇大神乃大前爾申久拜發端御馬屋乃由由志久荒奴流乎官司等歎愁而年經爾之乎今年此國能賀夜郡山内登云所爾住流中西恒高心遠起志豆國中乃人諸乎伊佐奈

比須須米天遠山近山能大木小木乎打伐採豆持參來豆神稅遠不用志天美麗久造理奉利奴伊登毛以止母勤志久大那留功爾奈母有氣留曾毛曾毛御馬波振立留耳能高支貴支神乃祭爾者古昔與利必牽立流事爾豆古伎祝詞爾毛御馬爾御鞍具氏止言支然伊倍婆神乃乘利給布物爾豆其屋母大與曾爾波思布麻自伎事爾奈毛有流乎如此造利奉禮留者喜志久與呂許保志支事爾有氣利由縁太敷立志柱乎御馬能前足爪後足爪志豆石根爾踏堅米豆波萬千年爾動事無久皇大神乃敷座須地佐夜宜無久恒高我壽波手長乃壽止幸倍給比其家能内乃人又恒高爾伊佐奈波禮都留諸人手平久安久此中山乃松葉奈

須常磐爾堅磐爾令榮給倍止(祈願)恐美恐美毛申須拜結尾  
 ○伊登毛以止母は、最最の義なり○振立留耳能高支貴支神乃祭とは、唯尊き神といふ意なり、振立留耳能は、馬の縁語にて、高きといはむ料の序詞なり○大與會とは、オホロカ、ナホザリなといふ意なり

門神祭

(祝詞初學)

櫛磐彌命豐磐彌命乃御前爾恐美恐美毛白左久拜發端大  
 神乃夜波夜能明流極美日波日乃暮留々迄此禮乃門邊  
 爾湯津磐群乃如久塞坐志氏惡事爾相交古利相口會志  
 米牟刀欲流天之禍都比又貨財乎加蘇比奪波牟刀欲流  
 盜賊等我四方四角與利疎備荒備來氏前都戸爾伊行違  
 比後都戸爾伊行違比候波久乎大神乃上乎守利下乎守

利待防岐掃却利言排氣坐須爾依里天(神德)屋內乃者等  
 安久穩爾在經留事乎尊美嬉美年每乃今日乎吉日刀撰  
 定米氏御祭仕奉利稱辭竟奉良久乎平介久安介久聞食  
 世刀(感謝)恐美恐美毛白須拜結尾

○夜波夜能明流極美、日波日乃暮留々迄とは、終日終夜の義なり○加蘇比奪波牟とは、掠奪せむといふ意なり○前都戸爾伊行違比、後都戸爾伊行違比候波久とは、盜賊などの行違ひて、表口裏口より入らむとして伺ふといふ意なり○待防岐掃却利言排氣坐とは、禍神の入來むを待防きて追散し、又言語を以ちて御説退け下さりますといふ意なり

竈神祭

(私祭要集)

八十月日日波在杼毛今日能生日能足日爾竈處爾奉齋留  
 齋火武主比命庭火皇神與津日子神與津比賣神等能御

前爾ニ白ク久ク拜シ發ス詞ヲ璞ニ能ク年ヲ立テ歸ル留ル朝ヲ與リ里ヲ年ヲ能ク終ニ能ク夕ニ麻ニ氏ヲ日ヲ  
 爾ニ異ニ爾ニ賜ハシ波ヲ留ル天津火ヲ能ク恩ヲ賴ル乎カ辱シ美ニ氏ヲ感シ謝ス奉ル留ル幣ヲ帛ヲ波ヲ  
 由ニ紀ニ能ク御シ食ス御シ酒ヲ波ヲ饗ス邊ニ高ニ知ル饗ス腹ヲ滿ス雙ニ氏ヲ山ノ野ノ物ヲ波ヲ甘ニ菜ヲ  
 辛ニ菜ヲ青ニ海ノ原ノ物ヲ波ヲ緒ヲ廣ク物ヲ緒ヲ狹ク物ヲ奧ニ津ノ海ノ菜ノ邊ニ津ノ海ノ菜ノ爾ニ至ル  
 麻ニ氏ヲ爾ニ雜ニ々ニ物ヲ乎カ横ニ山ノ能ク如ク久ク置キ足ヲ波ヲ志ヲ豆ヲ奉ル留ル幣ヲ帛ヲ乎カ安ス  
 幣ヲ帛ヲ能ク足ク幣ヲ帛ヲ登ル平ニ久ク所ニ聞ク食ス氏ヲ獻ス供ス咎ヲ過シ在ル乎カ婆ヲ見ル直ニ  
 志ヲ聞ク直ニ志ヲ坐ス氏ヲ御シ心ヲ一ニ速ク備ス賜ハシ婆ヲ受ス朝ヲ食ス夕ニ食ス爾ニ幸ヲ閉シ給ル閉シ  
 登ル祈ル願ス十六ニ自ラ物ヲ膝ヲ折リ伏ス宇ノ事ヲ物ヲ頸ヲ根ヲ突キ拔ス氏ヲ稱シ言ヲ竟ニ奉ル久ク  
 登ル白ク拜シ結ス尾ヲ

○日爾異爾は、日々といふに同じ○御心一速備賜婆受とい、御腹立になりて荒ひ給ふ事のなきやうにといふ意なり

井神祭

(祭文例)

挂ケ卷マ母ノ畏シ伎ヲ彌都波ヲ能ク賣ス神ヲ御シ井ノ神ヲ鳴ク雷ノ神ヲ乃チ大ニ前ニ爾ニ畏シ美ニ  
 畏シ美ニ毛ヲ白ク久ク拜シ發ス詞ヲ此ヲ御シ井ノ乎カ廣ク久ク厚ク久ク守ル賜ハシ比ニ幸ヲ賜ハシ比ニ氏ヲ千ニ  
 代ニ萬ノ代ニ毛ヲ奴ヲ流ル牟ノ事ヲ无ク久ク濁ル留ル事ヲ无ク久ク涸ル留ル事ヲ无ク久ク淺ル留ル事ヲ  
 無ク久ク和シ伎ヲ水ヲ乃チ甘ニ伎ヲ水ヲ乃チ清ク伎ヲ水ヲ乃チ佐シ夜ノ氣ヲ伎ヲ水ヲ乎カ彌多爾ニ  
 彌廣爾ニ授ハシ賜ハシ比ニ與ハシ賜ハシ比ニ諸ノ乃チ穢ニ乎カ祓シ給ル比ニ清ク給ル比ニ過シ犯ス事ヲ乃チ  
 有ル牟ノ乎カ婆ヲ見ル直ニ聞ク直ニ坐ス氏ヲ夜ノ守ル日ヲ守ル爾ニ守ル幸ヲ給ル閉シ登ル祈ル願ス禮ヲ  
 代ニ乃チ幣ヲ帛ヲ乎カ捧シ持シ氏ヲ獻ス供ス恐ク々ニ毛ヲ稱シ辭ヲ竟ニ奉ル久ク登ル白ク拜シ結ス尾ヲ  
 ○千代萬代母奴留牟事无久、濁留事无久、涸留事无久、淺留事无久とい、千萬年の後と雖も、水のぬるみたり、濁りたり、乾き涸れたり、底の淺くなりたりするとなくとの意なり、ぬるむひ、水の悪くなるをいふ○和伎水乃甘伎水乃清伎水乃佐夜氣伎水と

いふも、水をほめていふ詞にて、畢竟善水といふ意なるを、如此語を重ねて唱ふるが、古文の體にて、祝詞には此の例多し。

出船祭

(私祭要集)

此能所爾神籬立氏。招請奉里令座奉留。底筒男命。中筒男命。表筒男命。能御前爾白久。拜發端。今月今日乎。生日能足日。登齋定氏船出爲牟乎。大神等能。和魂荒魂。此船能舳爾毛。艦爾毛。神留里宇斯波伎坐氏。棹柁誤多受。大海原波吹風能。荒留事无久。立浪乃騷事无久。水上波地往我如。船上波床爾居如。指寄牟磯乃崎々。漕果牟泊々爾。障留事无久。平久安久。令有通給閉登禱白事乎。柁音能都婆良々々々爾。所聞食登(祈願)十六自物膝折伏。宇事物頸根突拔氏。稱言

竟奉久登白(結尾)拜詞

○和魂荒魂云々は、神功皇后の御故事に據りていへるなり○柁音能都婆良々々々爾とは、詳に聞食せとの意なり、櫓の船柁にてすれる音の、つばら、と聞ゆる故に、かぢのおとの委曲と云ひ係けて枕詞とせり

祈漁祝詞

(神事畧)

言幕母綾爾畏伎。吾大神乃御前爾。懼々三母申佐久。拜發端。此郷能漁夫等。間者海幸失比和備都々居乎。相恤三相慈。給比氏大海乃巨口細鱗等。袁追聚米天。海人等我網子調。反氏引網乃網目不泄。引網乃綱手不緩。佐々和々爾令曳。揚給伐。荷前方横山乃如久引居置氏奉牟刀(祈願)禮自利。乃御幣捧持氏(獻供)祈請奉久刀言(結尾)拜詞

○引網乃綱目不泄、引網乃綱手不緩とは、網の目より魚も脱れず又網の綱も緩ず

どの意なり○佐々和々爾令曳揚給とは、噪々ど漁夫どもの喧しく騒ぎて、網を引  
きあげて、多く魚を捕らせたまへどの意なり

祈獸獵祝詞

(祝詞初學)

某乃大神乃御前爾。畏美畏美。母啓左久。發端大神乃往昔  
與理吾我地刀。主佩坐須此山爾波。鹿甚多久。氏戴在角波  
枯木末如志。聚閉留脚波。若木原類志。噴介留息波。朝霧似  
世利故山麓耳。家居志。山幸得多類。獵夫等波。奔火乃玉  
筒。負比。氏朝爾。異爾。伊行伎。狩禮。母盡流事無久。隨分利  
潤乎。得都留毛。偏耳大神乃御恩。賴耳由留事刀。嬉美謝保  
比乍在來志乎。近伎頃與里。鹿等何方。閉加散禮。失世。氏終  
日覓介。杼母。其乃乾迹。陀爾見衣受。然許多有利志。物能頓

爾盡伎。奴可久波。阿羅自若大神。樞御心耳。不志已利。給布  
事有利。氏隱志。給閉留爾。加刀(由緣)獵夫等。一同畏懼。萬利。  
大前耳。種々乃御饗乎。奉利(獻供)祈白須狀乎。憫美給比。惠  
備給比。過犯志。氣牟罪咎波。神直日大直日。仁見直志。聞直  
志給神。氏往日乃如山。幸忒波受。鹿多仁寄志。賜波。婆志我  
角波。御笠乃林。志我耳波。御墨斗。目波真澄鏡。爪波御弓乃  
弭。毛乎御筆。爾製利。皮乎御箱。仁覆利。穴刀。臙刃波。御鱈林  
刀爲。氏養乃禮代。爾奉良牟登申須事乎。平介久安。介久聞  
食。氏乞乃隨爾。幸閉給閉刀(祈願)畏美畏美。毛啓須。結尾

○奔火乃玉筒とい鐵砲の事なり、此器の和名無くして國語にいふ事甚困難なるを、  
先うくいひて文をなせるなり○不志已利給とい、憤り給ふをいふ○乾迹とい、空



跡の義にて獸の足跡をいふ○御笠乃林といひ、御笠の飾にするとなり、ハヤシの令  
榮といふ義なり、

祈雨祭

(私祭要集)

此里能宇夫須那神登持崇久。掛麻久毛畏伎皇神乎始奉  
里。高龍神。閻龍神。天水分神。國水。分神。天之久比奢母知神。  
國之久比奢母知神。天津神。千五百萬國津神。千五百萬能  
皇神等能御前。爾白久。拜發端。此頃久。久雨降。受日能。累禮。嬰。  
殖志。田毛。詩志。畠毛。濁美。枯奈。牟止。爲賀。故爾。百姓等。憂左。  
麻與比。世武爲。便不知。仰氏待。天津水乎。大神等。相宇。豆能。  
比給。兵。高山能。末短山能。末里與。雨雲立。保備古里。光神。鳴。  
波多多伎。兵。速雨頻。爾令降。兵。貯留。端山能。池波。堤爾。堪。開。

塞上。兵。麻加須。流水。波。田。每爾。滿。兵。百姓能。作。登。作物。波。五。  
穀。乎。始。兵。草能。片。草。爾。至。麻。兵。成。幸。閉。給。閉。止。禱。白。須。事。  
乎。進。留。黑。馬。乃。耳。彌。高。爾。所。聞。食。登。祈。願。恐。美。恐。美。毛。白。須。  
拜。結。尾。

○雨雲立保備古理といひ、黒雲の空一面に立廣がるをいふ○光神鳴波多多伎兵といひ  
雷のころくと鳴るをいふ

新晴祭

(私祭要集)

此里能宇夫須那神登持崇久。挂麻久毛畏伎皇神乎始奉  
里。高龍神。閻龍神。天水分神。國水。分神。天之久比奢母知神。  
國之久比奢母智神。天津神。千五百萬國津神。千五百萬能  
皇神等能御前。爾白久。拜發端。此頃雨雲久。久覆比。霖雨降。兵。

高山能末短山能末與里佐久那太理爾落瀧都川能瀨溢  
 氏百姓能作作物波五穀乎始互草能片葉爾至麻氏不  
 生傷閉留賀故爾百姓等憂歎伎氏寐毛不安佐麻與比有  
 乎大神等相宇豆那比給氏雨雲乎科戶能風能氣吹掃氏  
 天津日能伊照徹良志百姓乃作作物波五穀乎始互草  
 乃片葉爾至麻氏成幸閉給閉登禱申須事乎進留白馬能  
 耳彌高爾所聞食登(祈願)恐美恐美毛白須(拜結尾)  
 吉備津神社例祭 (松屋文後集)  
 中山乃此美豆山能麓乃磐根爾宮柱太敷立高天原爾千  
 木高知流吉備津宮乎常宮止定賜比互神長柄神佐備鎮  
 毛里座須我皇大神乃大前爾稱辭竟奉流(拜發)詞倭文手纏

數爾母不在某我言麻久毛綾爾恐計度皇大神乃御名波  
 比古伊佐勢理昆古命亦御名乎大吉備津日子命止申故  
 者針間能氷河乃前爾忌翁居互天地乃神爾乞禱賜比針  
 間乎道口止為互此吉備國乃荒夫流神不奉仕人乎言向  
 和賜波武止天皇乃御子奈賀良所念看互御腰爾太刀取  
 佩志御手爾弓取持之軍士乎率伊佐奈比氏背向奉流者  
 乎擊賜比和賜布佐麻波科戶之風爾天雲乃晴留事能如  
 久朝日之影爾露霜能消留事能如久爾奈母有邪流其御  
 功爾與利天稱奉里互大吉備津日子命止申爾奈母神德  
 如是有婆古昔與利朝廷爾豆波齋比賜比伊都支賜比東  
 國乃大城爾座互天下申賜布大臣命波御刀代田乎寄奉

理賜比豆(感謝)官司祝部等爾。御祭乃神事乎伊曾之美豆。奈怠利會止。告賜布廣支厚支命乎。頂爾受賜利恐美持豆。坂樹葉奈須年中乃繁支神事。無緩怠。此九月乃中申日者。殊爾伊都支奉流日爾之有禮婆。祖名繼豆奉住留官人乎。三爾別豆。神遊爲流歌人乃登毛。大前爾並居豆。未通女乃舞能袖返須返須毛歌宇多比。御膳人乃登毛。淡木綿手次可比奈爾懸而白酒黑酒。荒稻和稻爾。海川野山爾。生流種種乃物乎取添。置高成流御桃阿麻多捧氣。白幣帛青幣帛乎持參來集比。今一群能官人者。御橫刀御弓御棒奈爾登美神寶。數々持參利豆貢理。御馬率立豆。大御祭住奉里奴麻供如此仕奉爾。依豆。今母去前母。天皇我朝廷乎。

始大城爾座須大臣命乎母。平久安久。山松之根乃遠久。堅磐爾常磐爾福開奉利賜比。天下四方國佐耶宜無久。住奉留官人等乎母。事無久喪無久。護利惠美賜倍登祈願某等諸共爾。阿布藝乞乃美。布之豆額都枳恐美。恐美毛申給。淡久止申拜結尾詞。

○倭文手纏は、數の枕詞なり。○忌登居豆は、清淨なる酒麴を、地に、堀居てといふ意あり。○東國乃大城爾座豆天下申賜布大臣命とは當時の徳川將軍をいふなり。○佐耶宜無久は、騒々敷となぐといふ意なり。

砥鹿神社例祭

(古學諄辭集)

參河國寶飯郡一宮村乃底都岩根爾宮柱太知立豆。鎮坐須。砥鹿大神乃宇頭乃御前爾。官位姓名慎美敬比恐美恐

美毛申佐久發詞大奈牟智大神止御名波白之互稱辭竟  
奉流神乃命波之毛神代乃始乃時須佐之男命乃御詔乃  
隨爾彼大神乃生大刀生弓矢乎以互御庶兄弟奈流八十  
神乃荒振神乎追撥比賜比打誅米賜比兵國造始米賜比  
又皇產靈神乃勅爾依互其神乃長子爾坐須少名毘古那  
神止御兄弟止成坐兵御心乎睦比御力乎合世坐兵國巡  
作堅米賜比伊邪那岐神乃真名兒熊野加夫呂岐奇御氣  
野命乃依佐之賜比授祁賜閉流五百津鉏乃神鉏乎取持  
賜比互葦薦菅乎殖生之互水月如須浮漂布國地乎堅米  
作利賜比少御神乃常世國爾渡利坐之後波和魂大物主  
神止相共爾廣矛乎御杖止爲突互國巡賜比豐葦原中國

乎悉爾順從閉賜比互宇之波伎坐爾依互大國主神止白  
之又國作大名牟智神止白之又顯國玉神止白之又大名  
持神止御名爾負麻之又千劍破荒振神言問布岩根本根  
青水沫乃類乎平和之賜比令言止賜比不降伏惡伎神  
不和親穢伎鬼等乎討誅米賜比追攘比坐互武支強支御  
稜威座坐爾依互葦原醜男神止白之又八千矛神止毛稱  
白世理又愛之伎蒼生乃病乎憐美賜比互少名毘古那神  
止議坐互藥湯乃道止病乎療須流方止乎始賜比飛禽走  
獸昆蟲乃灾乎攘牟止爲互其呪乃法乎定賜比伎是乎以  
氏百姓等今爾至流迄其恩賴乎蒙利奉利又高皇產靈神  
天照大御神乃御詔以兵皇美麻命乎天降命坐牟止爲賜

布時先經津主神武甕槌神二柱神乎下之賜比且大神爾  
問之賜波久汝我宇斯波祁流葦原中國波我御子之所知  
國止言寄之賜問理御勅乃任奉良牟邪止問之賜比志時  
爾恐之詔乃隨此葦原中國波獻良牟吾避奉良婆誰可毛  
麻都漏波奴者有牟吾兒等百八十神波八重言代主神神  
乃御尾前止成且仕奉良婆違布神波有良自吾所知顯明  
事波皇美麻命所治賜精我波隱氏幽冥事乎將治止白賜  
比且大八洲國現事顯事事避賜其皇美麻命乃鎮利坐牟  
大和國止白賜且已命乃和魂乎八咫鏡爾取託且倭大物  
主櫛瓊玉命止御名乎稱且大三輪乃神奈備爾命坐味和  
託彥根神乃御靈乎葛城乃鴨乃神奈備爾坐世言代主神

乃御靈乎宇那提乃神奈備爾坐世賀夜奈流美神乃御靈  
乎飛鳥乃神奈備爾令坐且天神乃御子命乃近支守神止  
貢奉置賜比又其平國賜比之時爾所杖賜開流廣乎乎經  
津主神武雷神爾授祁賜比且白賜波久吾此矛乎以且卒  
爾治功乎成世利皇美麻命此乎以且國治賜波婆必幸久  
坐牟止白給比又岐神波吾爾代且可奉仕止二柱乃神爾  
進賜比且即躬瑞之八尺瓊乎披且八雲立出雲國奈流  
八百米杵築宮爾長爾隱鎮座坐支神德如此是國土造利  
固米賜比之御勳功乃大奈流止目爾不見幽事乃機原乎  
總知利賜布御恩賴乃忝支止波言麻久毛更也自古皇  
我大朝廷乎奉守奉助天下乃蒼生乎撫賜比惠賜布高

支貴支恩賴乃大座坐爾依豆後藤原宮爾馭寓天皇乃  
 御代爾御田地奉利賜比神事仕奉賜之自利天皇我御世  
 乃繼繼久之支世世乎歷豆無絕事无闕事神事仕奉來豆  
 東乃遠朝廷爾天下乃大政聞食須御世止成豆毛御戶  
 代多爾寄佐之賜閉婆神官等我家門荒荒事宇麻波利榮  
 豆古乃法乃隨爾无違事无漏事御祭仕奉牟止爲豆(感謝)  
 此五月乃初四日乎生日乃足日止隨例齋定兵神主乎  
 始豆神官等各大海乃清支渚爾身滌祓之伊豆乃眞屋爾  
 忌許母利豆大前爾來入集豆捧奉流物等波新磨乃米以  
 豆炊祈流御饌乎彼方乃野乃上爾生流薄以豆包作禮流  
 御粽止歌比都々舞比都々造利仕奉禮流一夜酒止乎各

持寄利滿並倍獻利置兵由志利伊豆志利奉齋狀乎神隨  
 所知看兵獻流多米都物乎安幣帛乃足幣帛止平祁久安  
 祁久聞食受賜比豆(獻供)今毛往前毛天津日嗣乃高御座  
 爾顯津御神止大八洲國所知須皇孫命乃大御世乎足長  
 乃大御代止堅石爾常石爾奉齋嚴之御代乃足之御代爾  
 幸閉賜比食國天下爾道速振荒振事無久遠伎島島遙祁  
 支磯乃岬不落令治坐賜比親王諸王諸臣乎始兵仕止仕  
 布流百官乃人等乎平祁久安祁久守賜比豆天皇我朝廷  
 爾茂之八桑枝乃如久立榮延令仕奉賜比東乃遠朝廷爾  
 食國乃事執持豆政蕃知賜布大將軍乃御末波樛木乃彌  
 繼繼爾永久久玖武支稜威乎彌高爾彌廣爾輝加之令榮

賜比。生坐御子等與利。御族御屬爾至流迄。彌榮爾令榮賜  
 比。此所乎領須吉田乃城主松平君乃武支稜威乎。日爾異  
 爾令榮賜比。所治留百姓乎。毛令惠賜比。四方國乃蒼生等。  
 種種乃禍无久。取作留五穀乎。始氏草乃片葉爾至迄。作  
 止作留物等乎。惡風荒水爾不令相賜。八束穗乃茂穗爾成  
 幸閉賜比。大神乃鋪坐須。此鄉爾生出流氏子等乎。无漏事  
 无落事。守賜比矜賜比。氏枉神乃枉事不令有天乃益人  
 國益人止生出令榮賜比。其持分流家業乃各立榮氏繼  
 繼爾饒波布地止令成賜比。御社爾奉仕神司等我家内。安  
 久穩爾。諸乃灾波。不萌前爾遠久伊噴拂比。賜比過犯須事  
 乃有乎婆。見直之聞直之坐氏。夜乃守日乃守爾。護賜比幸

閉賜閉止。祈白須事乃由乎。平那久安那久聞食受賜閉止  
 (祈願)鹿自物膝折伏世。鵜自物頸根突拔。豆恐美恐美。毛白  
 須。結尾。拜詞。

辭別氏白佐久。發端今日乃神事爾。什奉流。神主祝等與利  
 始氏。村内乃氏子。里里乃百姓等。總豆此齋場爾。參入集氏  
 大神乃御德乎。仰奉利。恩賴乎。乞祈奉流。人共波。各荒忌  
 眞名忌之。豆忌清。回利都禮。百千千乃人乃參集波。禮留  
 中爾波。不慮穢。不思過有止毛。神直毘大直毘爾。見直之聞  
 直之坐氏。咎賜布事毛無久。崇賜布事毛无久。夜乃守日乃  
 守爾。守利賜比。幸閉賜閉止(祈願)畏美畏美。毛白須。結尾。拜詞。

○宇頭乃御前は、貴の御前といふ意なり○眞名見は、最愛子の義なり○五百津組乃神

鈕は、五百挺の鈕の意なり。○常世國は、外國といふなり。○八咫鏡の、徑の彌咫の  
る鏡といふ意なり、咫の、片手の廣さといふ。○大三輪乃神奈備の、大三輪の神社の意  
なり。○瑞乃八尺瓊の、瑞は美麗の義にて、八尺瓊の玉の美稱なり。

山室山神社大祭

(秋屋文章)

神風乃伊勢國豐御食乃飯高郡乃此松坂乃里近伎岡本  
乃清伎地爾眞水柱保米豆祝比豆御稜威乃高知留宮刀  
仕奉禮留山室山神社乃宇豆乃御前爾畏美拜美毛白佐  
久發端掛卷母畏伎天神諸乃大命以豆伊邪那伊邪那  
美二柱命爾事依志賜比二柱大神神議々里賜比豆國生  
成修理固米賜比神生成事始米賜比之此天下爾所在百  
八十國乃國乃本國止我大日本是乃大八洲國波志毛神  
漏岐神漏美乃命以豆皇孫命乃御代乃繼々天地乃牟多

無究爾知佐牟國刀大御手豆加良大御靈乃神寶乎毛授  
氣事保賀比定米賜比之隨々久方乃安乃河水流禮豆清  
久唯一筋爾受傳坐須高御座高伎貴伎天津日繼乃御傳  
記乎始米豆上古乃事乃條々書記之多留書乃卷々讀明  
之說辨布留石上古事學乃道波志毛水鳥乃羽倉大人伊  
稻荷山嶺之矛楯高久嚴志久言論比坐氣留乎水莖乃岡  
部大人伊其心乎受繼之引馬野乃小野乃榛原深久廣久  
說明志賜比之學乃統毛彌々太久益々明氣久成行久時  
來向布止大御神乃鎮坐須此神風乃伊勢國與里我秋津  
彦美豆櫻根大人命伊世爾所顯坐豆神路山深久遠久道  
乃與處乎認米明之五十鈴川清久佐夜氣久倭心乃眞乃



旨乎說定米賜比之爾依豆古會神乎敬此天皇乎尊毘我  
國乎重美須留真心乃雄心振起須人々毛國々爾出來爾  
氣禮其學乃道爾勤志美勞久人々多那里之中爾毛神靈  
眞柱大人命波其靈乃眞柱乎太久嚴志久突立其學乃道  
乎毛彌張爾彌廣爾漢土印度乃書乃卷々乎佐閉繰返志  
讀互世乃人乃惑閉留心乃雲霧乎級戸乃風成伊吹伎放  
知雄詰爲都々導支說志氣留乎以互劔太刀稜威乃利心  
乎振起志言論布人々盛爾成來多留後遂爾明治乃此新  
世乃大御世止成互大人等乃年來慨美歎伎賜比之御心  
毛青雲乃絲乃空爾登留日乃隈無久伊照曜久世止成互  
波其年頃乃勳績毛所顯之乃美爾非受畏伎大命以互正

四位乃位乎贈理賜比又幣帛代乃金乎賜比此神社乎改  
米造留事爾依豆毛物多爾賜比之事等波大人等乃神靈  
毛天翔里國翔里畏美與呂許保比御心足比爾所念志氣  
奉神德如此互是乃神社毛仕奉里竟奴留乎以互其神靈  
乎遷志齋比奉里之日乎生日乃足日乃大御祭日止定米  
之例乃隨々九月二十六日乃今日乃朝日乃豐榮登爾  
神官等諸集侍理豆由緣幣帛波照妙明妙爾豐御饌豐御  
酒海川山野乃机代物乎橫山成置足波之捧奉里是乃三  
重縣乃官人乎始米互郡長市長及御社乃事爾勤志美勞  
氣留人々波更那里遠伎近伎所々乃人等伊群集比或波  
思布意乎歌比言舉或波狀々那留和射袁伎乃遊爲互賑

里樂美合布事狀乎母御心母穩爾聞食豆獻供掛卷毛畏  
 伎皇賀大御代乎彌真盛爾立榮衣坐志米奉里我御國乃  
 御稜威乎彌高爾曜加志米奉里又學乃道爾伊多都伎勉  
 留人々乎守里贊氣豆思比得難爾苦牟事波速氣久思比  
 得之米違閉留方爾惑閉留心波真直爾改米悟良志米賜  
 閉刀乞祈豆如是仕奉留式乃漏落過多牟事等波廣伎御  
 心爾見直志聞直志相宇豆那比賜閉乃祈願齋主某忌志  
 理嚴志理畏美畏美毛稱言竟奉良久刀白須拜尾  
○豊御食乃飯高の枕詞なり○御稜威乃高知留宮とい、神徳の著明なる宮といふ  
 意なり○大御靈乃神寶は三種の神寶のとなり○水鳥乃羽倉の枕詞なり○稻荷  
 山嶺乃才根は高久嚴志久といはむ料の序詞なり、稻荷山は京都の稻荷山にて羽倉大

人の生地なる故に、かく綾なせるなり○氷草乃、岡部の枕詞なり○引馬野乃小野乃  
 接原は、深久廣久といはむ料の序詞なり、岡部大人は遠州の産なる故に其の名所を以  
 ちてかく綾なせるなり○秋津彦美豆櫻根大人命は、本居大人なり○神靈真柱  
 大人命は、平田大人なり

祭二靈祝詞

(鈴屋集)

掛麻久母畏支崇道盡敬皇帝命乃大御靈寧樂大朝乃民  
 郡卿太朝臣命乃御靈二柱乃御靈乃御前爾姓名等恐美  
 恐美母申給波久登申須拜發皇帝命波日本書紀乎撰比  
 給比朝臣命波古事記乎記志給比豆天地乃判志時與利  
 神乃御代乃御代御代乃七御代乃御代御代五御代乃御  
 代御代天皇命乃遠都御代乃御代御代乃天津日嗣乃御  
 次手乎始返世間爾有登志有祁牟雜雜之故事乎漏流事

無久落流事無久委曲爾撰比給比記志給互天地之共彌  
 遠長爾大皇朝廷乃大御寶登遺志給比傳閉給布廣伎厚  
 伎大御惠爾依互志(神德)千年五百年乃後乃世爾遠遲奈  
 久拙伎某等我友賀良爾至麻互爾遙那伎神代乃有那流  
 形乎宇迦迦比尋禰互明那伎貴伎御世乃意乎百箇我一  
 母悟知事得互志有流恩賴乎二乃御書讀奉流度每爾頂  
 爾捧持互畏美宇禮斯美奈母思給布感謝故是以今年乃  
 某月乃某日乎生日乃足日登擇定互某之宅乃與乃小床  
 乎伊豆乃磐境登掃比清米互奧山乃小柴之枝乎打折持  
 來互伊豆乃真坂樹登二所爾刺分波夜志齋比奉互(裝束)  
 和幣取置伎忌翁居並倍海山乃多米都物乎負奈負奈桃

代登貢奉互(獻供)恐美恐美母申佐久二柱命乃御靈等今  
 如是刺立齋奉流神籬爾唯暫時之間天翔依來坐互漏落  
 牟事乎波神直毘大直毘爾見直志聞直志坐互貢奉禮流  
 物乎神隨平那久安良那久所聞看互今母去前母某等之  
 學乃業乎彌助爾助給比彌弊米爾弊給比互八十禍津日  
 乃禍事有世受夜乃守日乃守爾守幸閉給閉登(祈願)某等  
 諸共爾牝鹿成膝折伏世鵜自物頭根衝拔互恐美恐美母  
 申給波久登申拜結尾

祭祖靈祝詞

(古學諄辭集)

謹美敬比互遠津御祖乃御靈代代乃御祖親族諸御靈  
 等乃御前爾子孫姓名近伎郷々乃大神等爾仕奉留神主

等諸共爾。鹿自物膝折伏世。鵝自物頂根突奴伎互。恐美恐  
 美白須。拜發端天避留鄙知布鄙乃中爾毛。此乃上津總國伊  
 隅長柄乃邊波毛。鳥我鳴吾嬌國乃東乃極美。朝日乃直指  
 須海原近伎鄉々爾互。上津代波。鄉人等生出留隨爾表裏  
 乃心逆志良。心有事無久。清伎赤伎眞澄鏡乃曇奈伎心爾  
 奈毛有祢禮。婆一向爾。皇美麻命乃大御面向。祢爾順比奉  
 里種々乃取行布和射乎毛。總氏古事乃例爾。倣比氏勤美  
 行比來爾。祢流遠。三栗乃中津代爾。至里互。蟹我行橫佐乃  
 道乃參渡里。內日刺都乎始米。四方乃鄉里。野乃底山乃底  
 萬氏弘恭里。皇大御國乃古事廢禮。大神等乃御稜威毛。  
 彌隱里爾。隱呂比行伎。官人等我仕奉留神業波。歲爾異

爾卑志米。貶佐延都々。伊武勢伎布勢。慮爾屈美互。居禮婆  
 佐賀無伎人等波。橫佐乃道乃時米久爾。毛智鳥乃拘良比  
 泥美互。其方爾相麻自古理相口會互。已我仕奉留御社已  
 我家乎毛退伎去理互。永久其迹乎斷爾志人毛多加留爾  
 (由緣)辱人雄々志久毛。吾家乃御靈等與。當昔次々乃荒廢  
 乎之毛。痛久忍婆志都々。仕奉禮留御社。其家乃子孫乃嗣  
 嗣彌遠長爾守里保知互。今爾傳聞給閉流事波。最毛尊伎  
 辱伎恩賴爾。奈母有祢留神德。此如久尊支恩賴爾。依互奈  
 牟。今之毛玉幸波。布大神等乃御心登。古學比乃宇麻志大  
 人等。次次爾世爾出坐。氏神代乃故實見之。明良米。顯事幽  
 事萬乃由緒乎毛。詳爾說明志。世爾教悟志給比互。日爾月

爾惟神奈留御道乎。慕比學夫徒澤爾出來。大神等乃御  
稜威波。漸爾古昔爾立復里照輝伎。官人等毛天神等乃稜  
威乃御光乎蒙里。牟具良繁禮留布勢廬乃。柴乃破戸乎  
推開伎。尊伎御道乃片端乎毛。手取行比氏。正道乃正直  
奈留趣。横佐乃道乃横佐奈留趣乎毛。窺比知留々事登奈  
母成奴留波。自今後彌益益爾。此學乃榮行御世久止成那  
奉事乃甚嬉志久歡志支爾就。姓名奈毛其恩賴爾報奉  
留止志。世世乃御祖能御祭殊爾仕奉良麻久思比立奴  
流時爾合世。近伎鄉々乃常母睦魂相閉留神主等毛同  
樣爾其御祖等乃恩賴乎蒙禮。各毛互爾其家家袁  
廻里。御祭相助。都々仕奉。年登言布爾語合。互(感謝)今

日乎生日乃足日登擇定米。姓名我與津小床袁伊豆能  
磐境登掃清免。奧山乃賢木乃枝乎打折持來。伊豆乃眞  
坂樹登二所爾刺立時乃花乎毛取添。神籬成波夜志齋  
比立奉。互(裝束)姓名我弱肩爾太禰取掛。持齋麻波里持  
清麻波里造理仕閉奉禮留一夜酒登。我爾波安良受石多  
多須常世爾在須久斯乃神少御神乃釀志御酒登乎。自木  
黑木登。甕瓮高知里甕腹居竝倚。百杵乃八百杵爾。杵突伎  
仕奉禮留餅乃鏡。時自久乃香能菓種々爾。栗實柿實梨實  
洗米赤飯。堅鹽御毛比。大野原爾生留物波。甘菜辛菜乎始  
米種々乃物。青海原爾住物波。緒乃廣物緒乃狹物。大海仁  
生流物波。廣和布荒和布若和布乃。與津藻葉邊津藻葉爾

至留麻氏爾。今日乃禮代御饗乃物登。各毛持寄滿竝  
倍立奉豆(獻供)恐美恐美母申佐久。遠津御祖。代代乃御祖  
親族乃御靈等。今如此久刺立齋比奉流神乃小床爾。天翔  
來坐此獻奉流多米都物乎。御心母和親爾。平介久安良介  
久安幣帛乃足幣帛登所聞食豆。姓名我家爾。毛身爾。毛枉  
事有世受夜乃守日乃守爾。守幸閉宇豆那比給比子孫乃  
八十相續伎。無窮爾。根母若呂爾。吾御社爾。勤美仕奉志米  
學問乃道物書久業乎。毛勤志米。家名乎。毛貶佐志米受。遠  
長爾。御祭善志久仕奉志米給閉止(祈願)今日乃御祭爾。相  
集閉留神主等諸共爾。鵜成竝居。宇自物頸根衝拔豆。平手  
打上邪拜美。恐美恐美毛申給波久登。白須(結尾)拜詞

○天遊留は、鄙の枕詞なり○鳥我鳴は、東國の枕詞なり○三粟乃は、中の枕詞なり○  
毛智鳥乃は、拘の枕詞なり○時自久乃香能菓は、本來橘實のとなれどもこゝは密柑  
なごゝへるなるべし

六月月次祭

御門乃御巫能辭竟奉。皇神等能前爾。白久(發端)櫛磐間門  
命。豐磐間門命登。御名者白氏辭竟奉者。四方能御門爾。湯  
都磐村能如久塞坐氏。朝者御門開奉夕者。御門閉奉氏。疎  
布留物乃。自下往者下乎。守自往者上乎。守夜乃守日乃  
守爾。守奉故(神德)皇御孫命乃宇豆乃幣帛乎。(獻供)稱辭竟  
奉久登。宣(結尾)拜詞  
生島乃御巫能辭竟奉。皇神等乃前爾。白久(發端)生國足國

登。御名者白氏辭竟奉者皇神乃敷坐島乃八十島者谷蟻能狹度極鹽沫乃留限利狹國者廣久嶮國者平久島乃八十島墮事無久皇神等寄志奉故神德皇御孫命乃宇豆乃幣帛乎(献供)稱辭竟奉久登宣(拜結尾)

この月次祭以下の祝詞は延喜式より採れる古文なり

遣唐使時奉幣

皇御孫尊乃御命以氏住吉爾稱辭竟奉留皇神等乃前爾申賜久(拜發端)大唐爾使遣佐牟止爲爾依船居無氏播磨國與理船乘爲氏使者遣佐牟止所念行間爾皇神命以氏船居波吾作牟止教悟給比支神德教悟給比那我良船居

作給部禮波悦已備嘉志美(感謝)禮代乃幣帛乎官位姓名爾令捧賚氏進申久登白(拜結尾)

此の文は結尾句をも兼ねたる格ふるべし

春日祭

天皇我大命爾坐世恐岐鹿島坐健御賀豆智命香取坐伊波比主命枚岡坐天之子八根命比賣神四柱能皇神等能廣前仁白久(拜發端)大神等能乞賜比能任爾春日能三笠山能下津石根爾宮柱廣知立高天原爾千木高知氏天乃御蔭日乃御蔭止定奉氏由緣貢流神寶者御鏡御橫刀御弓御梓御馬爾備奉理御服波明多閉照多閉和多閉荒多閉爾仕奉氏四方國能獻禮留御調能荷前取竝氏青海原乃

物者波多能廣物波多能狹物奧藻菜邊藻菜山野物者甘  
 菜辛菜爾至麻豆御酒者甕上高知越腹滿竝氏雜物乎如  
 橫山積置氏神主爾某官位姓名乎定氏獻流宇豆乃大幣  
 帛乎安幣帛乃足幣帛登平久安久聞食者登皇大御神等  
 乎稱辭竟奉久登白獻供如此仕奉爾依氏今母去前母天  
 皇我朝廷乎平久安久足御世乃茂御世爾齋奉利常磐爾  
 堅磐爾福閉奉利預而仕奉流處處家家王等卿等乎  
 母平久天皇我朝廷爾伊加志夜久波叡能如久仕奉利佐  
 加叡志米賜登祈願稱辭竟奉良久登白結尾  
 平野祭  
 天皇我御命爾坐世今木與利仕奉來流皇大御神能廣前

爾白給久發端皇大御神乃乞志給乃任爾此所能底津石  
 根爾宮柱廣敷立高天乃原爾千木高知氏天能御蔭日能  
 御蔭登定奉氏由緣神主爾神祇某官位姓名定氏進流神  
 財波御弓御太刀御鏡鈴衣笠御馬乎引竝氏御衣波明多  
 閉照多閉和多閉荒多閉爾備奉利互四方國能進禮流御  
 調能荷前乎取竝氏御酒波越戶高知越腹滿竝氏山野能  
 物波甘菜辛菜青海原乃物波多能廣物波多能狹物奧  
 都毛波邊津毛波爾至麻氏雜物乎如橫山置高成氏獻  
 流宇豆乃大幣帛乎平久所聞氏獻供天皇我御世乎堅磐  
 爾常磐齋奉利伊賀志御世爾幸閉奉氏萬世爾御坐今在  
 米給登祈願稱辭竟奉久登申拜結尾



又申人發端參氏仕奉流親王等王等臣等百官人等乎母  
夜守日守爾守給氏天皇我朝廷爾伊夜高爾伊夜廣乃伊  
賀志夜具波江乃如久立榮之米令仕奉給登祈願稱辭竟  
奉久止申拜結尾

龍田風神祭

龍田爾稱辭竟奉皇神乃前爾白久發端志貴島爾大八島  
國知志皇御孫命乃遠御膳乃長御膳止赤丹乃穗爾聞食  
須五穀物乎始氏天下乃公民乃作物乎草乃片葉爾至  
萬氏不成一年二年爾不在歲真尼久傷故爾百能物知  
人等乃卜事爾出牟神乃御心者此神止白止負賜支此乎  
物知人等乃卜事乎以氏卜止母出留神乃御心母無止白

止聞看氏皇御孫命詔久神等乎波天社國社止忘事無  
久遺事無久稱辭竟奉止思志行波須乎誰神會天下乃公  
民乃作物乎不成傷神等波我御心會止悟奉禮止宇  
氣比賜支是以皇御孫命大御夢爾悟奉久天下乃公民乃  
作物乎惡風荒水爾相都都不成傷波我御名者天乃御  
柱乃命國乃御柱乃命止御名者悟奉氏吾前爾奉牟幣帛  
者御服者明妙照妙和妙荒妙五色乃物楯戈御馬爾御鞍  
具氏品品乃幣帛備氏吾官者朝日乃日向處夕日乃日隱  
處乃龍田能立野乃小野爾吾官波定奉氏吾前乎稱辭竟  
奉者天下乃公民乃作物者五穀乎始氏草乃片葉爾  
至乃氏成幸開奉牟止悟奉支是以皇神乃辭教悟奉處仁

皆柱定奉養。此乃皇神能前爾稱辭竟奉爾。皇御孫命乃宇  
 豆乃幣帛乎令捧持。王臣等乎為使。氏稱辭竟奉久止。  
 皇神乃前爾白賜事乎。神主祝部等諸聞食止。宣由緣奉宇  
 豆乃幣帛者。比古神爾御服。明妙照妙和妙荒妙五色物。楯  
 戈御馬爾御鞍具。氏品能幣帛獻。比賣神爾御服備。金能  
 麻笥。金能楯。金能持。明妙照妙和妙荒妙五色能物。御馬爾  
 御鞍具。氏雜幣帛奉。氏御酒者。應能閉高知。應腹滿雙。氏和  
 稻荒稻爾。山爾住物者。毛乃和物。毛乃荒物。大野原生物者。  
 甘菜。辛菜。青海原爾住物者。鱸能廣物。鱸乃狹物。與都藻菜  
 邊都藻菜爾。至乃氏爾。如橫山打積置。氏奉此宇豆乃幣帛  
 乎。安幣帛能足幣帛止。皇神能御心爾。平久聞食。氏獻供。天

下能公民能作物乎。惡風荒水爾不相賜。皇神乃成幸閉  
 賜者。初穗者。應能閉高知。應腹滿雙。氏汁爾母。穎爾母。八百  
 稻千稻爾。引居置。氏秋祭爾奉。奉止(祈願)王卿等。百官  
 能人等。倭國六縣能刀禰。男女爾至萬。氏爾。今年四月諸參  
 集。氏皇神能前爾。宇事物。頭根築拔。氏今日能朝日乃豐逆  
 登爾。稱辭竟奉。流皇御孫命乃宇豆乃幣帛乎。神主祝部等  
 被賜。氏墮事無奉禮。登宣命乎。諸聞食止。宣結尾  
 拜詞

鎮火祭

高天原爾神留坐。皇親神漏義神漏美能命持。氏皇御孫命  
 渡。豐葦原乃水穗國乎。安國止平久所知。食止。天下所寄奉  
 志時爾。事寄奉志。天都詞太詞事乎。以氏申久。拜發。神伊佐

伎伊佐奈美乃命妹背二柱嫁繼給氏國乃八十國島能  
 八十島乎生給比。八百萬神等乎生給比氏。麻奈弟子爾。火  
 結神生給氏。美保止被燒氏石隱坐氏。夜七夜晝七日。吾乎  
 奈見給比會。吾奈妹乃命止申給比支。此七日爾波不足氏。  
 隱坐事奇止氏見所行須時。火乎生給比。御保止乎所燒坐  
 支。如是時爾。吾名妹乃命能。吾乎見給夫奈止申乎。見阿波  
 多志給比津止申給比。吾奈妹能命波。上津國乎所知食倍  
 志。吾波下津國乎所知。在止白氏。石隱給比。與美津枚坂爾  
 至坐氏所思。食久。吾名妹能所知。食上津國爾。心惡子乎  
 生置氏來奴止。宜氏返坐氏。更生子。水神。匏。川。菜。壇。山。姬。  
 四種物乎生給比。此能心惡子乃心荒比會。波。水神。匏。壇。山。

姬川菜乎持氏。鎮奉禮止事。教悟給支。由緣依此氏稱辭竟  
 奉者。皇御孫能朝廷爾。御心一速比給波志止爲氏(祈願)進  
 物波。明妙照妙和妙荒妙。五色物乎備奉氏。青海原爾住物  
 者。鯖。廣物。鯖。狹物。奧。津。海。菜。邊。津。海。菜。爾。至。萬。氏。爾。御。酒。者  
 廳。邊。高。知。廳。腹。滿。雙。氏。和。稻。荒。稻。爾。至。萬。氏。爾。如。橫。山。置。高  
 成氏(獻供)天津祝詞能太祝詞事以氏。稱辭竟奉久止申。結  
 詞拜

第四章 送假字と音假字

凡。祝詞文に。送假字を加ふるに。單語法と複語法との二  
 法ありとす。單語法とは。一言一語に送假字を加ふる規  
 則をいふふり。即ち左の如し

一用言は作用言と形状言とを問はず。すべて其の語尾を加ふること

一良行四段一格に轉活せるは其の本語の語尾を添ふること

一續用段を体言に言ひ居ゑたるは其の本段の語尾を加ふること

但し氷扇コキアヲキの如き物名言は此の限りにあらず

一延言は其の延れる語尾を加ふること

一其此彼の如き。そのこのかの訓む所は。のの字を加へ。吾我誰の如き。わがながと訓む所は。がの字を加ふること

今祝詞中の語にあてゝ之を説明すべし  
生受動領撥辟敷退噪霧繼衝  
嫁拔剝佩披引吹防壽詩燒往  
別沸

これらは加行四段に活く詞どもふれば加伎久氣と送假字を加ふべきあり

開挂捧平付續儲別

これらは同行下二段に活く詞ふれば氣久久流久禮と加ふべきあり

思行犯押聞下乞凝悟刺知足  
仆遣問成直霽齋伏干坐白益

見所行 食 和 依 徹 外 干 坐 白 論

これらに依り佐行四段に活く詞なれば。差。志。須。世。と加ふ

べきふり

相失 仰 負 馳 寄

これらハ。同行下二段に活く詞なれば。世。須。須。流。須。禮。

と加ふべきふり

過 打 降 立 斷 放 持

これらハ。多行四段に活く詞なれば。多。知。都。氏。と加ふ

べきふり

落 遺 墮

これらハ。同行上二段に活く詞なれば。知。都。都。流。都。禮

と加ふべきふり

出 立

これらハ。同行下二段に活く詞なれば。氏。都。都。流。都。禮。

と加ふべきふり

往

これハ。祭行三段に活く詞なれば。奈。爾。奴。奴。流。奴。禮。と加

ふべきふり

會 齋 言 失 負 思 隨 傷 給 賜 問 飛

詔 拂 祓 躡 向 翫 結 選

これらハ。波行四段に活く詞なれば。波。比。不。閉。と加ふ

べきふり

荒<sup>アハ</sup>疎<sup>ソ</sup> 蠱<sup>コ</sup>生<sup>シ</sup> 媚<sup>メイ</sup>

これらは。同行上二段に活く詞ふれば。比。不。不流。不禮。  
と加ふべきなり

幸<sup>サキ</sup>備<sup>ビ</sup> 副<sup>ソ</sup>稱<sup>ショウ</sup> 食<sup>シキ</sup>賜<sup>ミ</sup> 仕<sup>シ</sup>集<sup>シツ</sup> 雙<sup>ソウ</sup> 祓<sup>ハヒ</sup> 教<sup>キョウ</sup> 竟<sup>キョウ</sup>

これらは。同行二段に活く詞ふれば。閉。不。不流。不禮。  
と加ふべきなり

生<sup>シ</sup>恐<sup>コウ</sup> 住<sup>ジュ</sup>積<sup>シツ</sup> 吞<sup>ツ</sup>履<sup>リ</sup> 惠<sup>ヱ</sup>

これらは。麻行四段に活く詞ふれば。麻。美。牟。米。と加ふ  
べきなり

見<sup>ミ</sup>

これは。同行上一段に活く詞ふれば。美。美流。美禮。と加ふ

べきなり

明<sup>メイ</sup>埋<sup>バイ</sup> 堅<sup>ケン</sup> 清<sup>セイ</sup> 定<sup>テイ</sup> 令<sup>レイ</sup> 鎮<sup>チン</sup> 進<sup>シン</sup> 勤<sup>キン</sup> 始<sup>シ</sup> 止<sup>シ</sup>

これらは。同行下二段に活く詞ふれば。米。牟。流。牟。禮。

と加ふべきなり

射<sup>セ</sup>

これは。夜行上一段に活く詞なれば。以。以流。以禮。と加ふ

べきなり

聞<sup>ケン</sup> 見<sup>ケン</sup> 榮<sup>エイ</sup> 絶<sup>ケツ</sup> 若<sup>ニハ</sup>

これらは。同行下二段に活く詞ふれば。延。由。由流。由禮。  
と加ふべきなり

坐<sup>サ</sup>

こは。和行上一段に活く詞ふれば。韋。韋流。韋禮。と加ふ  
へきあり

居

こは。同行下二段に活く詞ふれば。惠。宇。宇流。宇禮。と加  
ふへきあり

預。餘。入。集。遷。冠。刈。限。翔。返。切。籠

避。塞。知。鎮。奉。垂。足。賜。崇。作。成。生

殘。乘。議。振。掘。守。參。退。罷。却。依。渡

これらは。良行四段に活く詞ふれば。良。利。流。禮。と加ふ  
へきあり

生。漏。忘

これらは。同行下二段に活く詞ふれば。禮。流。流々。流禮。  
と加ふへきあり

坐

こは。佐行四段の世より。再。有の活へ轉りて。更に良利  
流禮と活く詞ふれば。世。良。世利。世流。世禮。と加ふへき  
あり

立

こは。多行四段の氏より。再。有の活へ轉りて。活く詞ふ  
れば。氏。良。氏利。氏流。氏禮。と加ふへきあり

傷

こは。波行四段の閉より。再。有の活へ轉りて。活く詞ふ

預集奉作  
れば。閉良。閉利。閉澆。閉禮。と加ふべきあり

これらは。良行四段の禮より。再。有の活へ轉りて。活く  
詞ふれば。禮良。禮利。禮流。禮々。と加ふべきあり  
荒。甘。畏。穢。如。狹。近。遠。無。長。廣。

これらは。久。志。伎。と活く詞あり。送假字も。其の如く加  
ふべし

悪。奇。茂。峻

これらは。志。志久。志伎。と活く詞あり。送假字も。其の如  
く加ふべし

平。安

これらは。氣久。氣志。氣伎。と活く詞なり。送假字も。其の  
如く加ふべし

緩。噪

これらは。四段に活く詞なり。そを。葛目能。緩比。草万。噪  
岐と体言にいひするところは。其の如く。送假字  
を加ふべし

進。勤

これらは。下二段に活く詞あり。そを。宮進。米爾進。米。宮  
勤。米爾勤。米。と上の體言にいひ。下は。用言にいふも。と  
もに。送假字を加ふべし

奉。良。久。宜。波。久。白。左。久



これらハ。奉留宣布白須の延言ふれば。右の如く。送假字を加ふべし

複語法とは。二言二語及神名地名等に。送假字を加ふる規則をいふなり。即ち左の如し

一二箇の用言連続せるものは。其の上の詞の送假字を省きて。其の下の詞にのみ加ふること

一一箇の用言と一箇の體言との連続せるも。また。其の上の語の送假字を省くこと

一神名地名等の間に加ふべき。送假字は。之を省くこと  
今。祝詞中の語にあてゝ。之を説明せば

開食須知食須。上坐須。至坐須。祓給比。清給布。齋奉利。幸奉

利。太知利。高知利。取作留。畫垂利

また。住物。生物。生日。足日

また。健御賀豆智命。伊波比主命。皇御孫命。出雲國の如し。  
其の他類を推して知るべし



音假字は。送假字に用ゐるのみならず。古今の言語を祝詞文に寫さむには。音假字を用ゐざるべからざる必要あり。故に之を臚列すること。左の如し

清音假字

〔ア〕阿安

〔イ〕伊

〔ウ〕宇汗

〔エ〕叡延愛

〔オ〕意淤隱

〔カ〕加可迦甲

〔キ〕伎支貴岐企紀幾吉

〔ク〕久玖

〔ケ〕氣計家祁

〔コ〕許胡古己

〔サ〕左佐射沙

〔シ〕志之斯師

〔ス〕須周

〔セ〕世勢

〔ソ〕曾蘇宗

〔タ〕多太他

〔チ〕智知

〔ツ〕都

〔テ〕氏天帝

〔ト〕登刀斗等

〔十〕那奈

〔三〕爾仁

〔又〕奴怒

〔子〕彌泥尼

〔ノ〕能乃

〔ハ〕波八

〔ヒ〕比肥斐

〔フ〕布府

〔へ〕閉部幣閉

〔ホ〕保富本

〔マ〕麻萬末

〔ミ〕彌美味微

〔ム〕牟武无

〔メ〕賣米咩

〔モ〕母毛

〔ヤ〕夜也

〔ユ〕由

〔ヨ〕與用豫余

〔ラ〕良羅

〔リ〕利理

〔ル〕留流魯

〔レ〕禮

〔ロ〕呂漏

〔ワ〕和

〔井〕章

〔エ〕惠

〔チ〕衰

濁音假字

〔ガ〕我賀

〔ギ〕藝疑

〔グ〕具

〔ゲ〕祢下宜牙

〔エ〕碁

〔ザ〕耶奢

〔ジ〕事自士

〔ズ〕受

〔ゼ〕是

〔ゾ〕叙

〔タ〕陀

〔チ〕遲治地

〔ツ〕豆頭

〔テ〕傳殿

〔ト〕杼度

〔バ〕婆

〔ビ〕備

〔ブ〕夫

〔ボ〕倍辨

〔ホ〕煩

8/4/36

祝詞作文法終

明治二十五年二月十六日印刷  
明治二十五年二月十七日出版

(定價金拾五錢)

版權所有

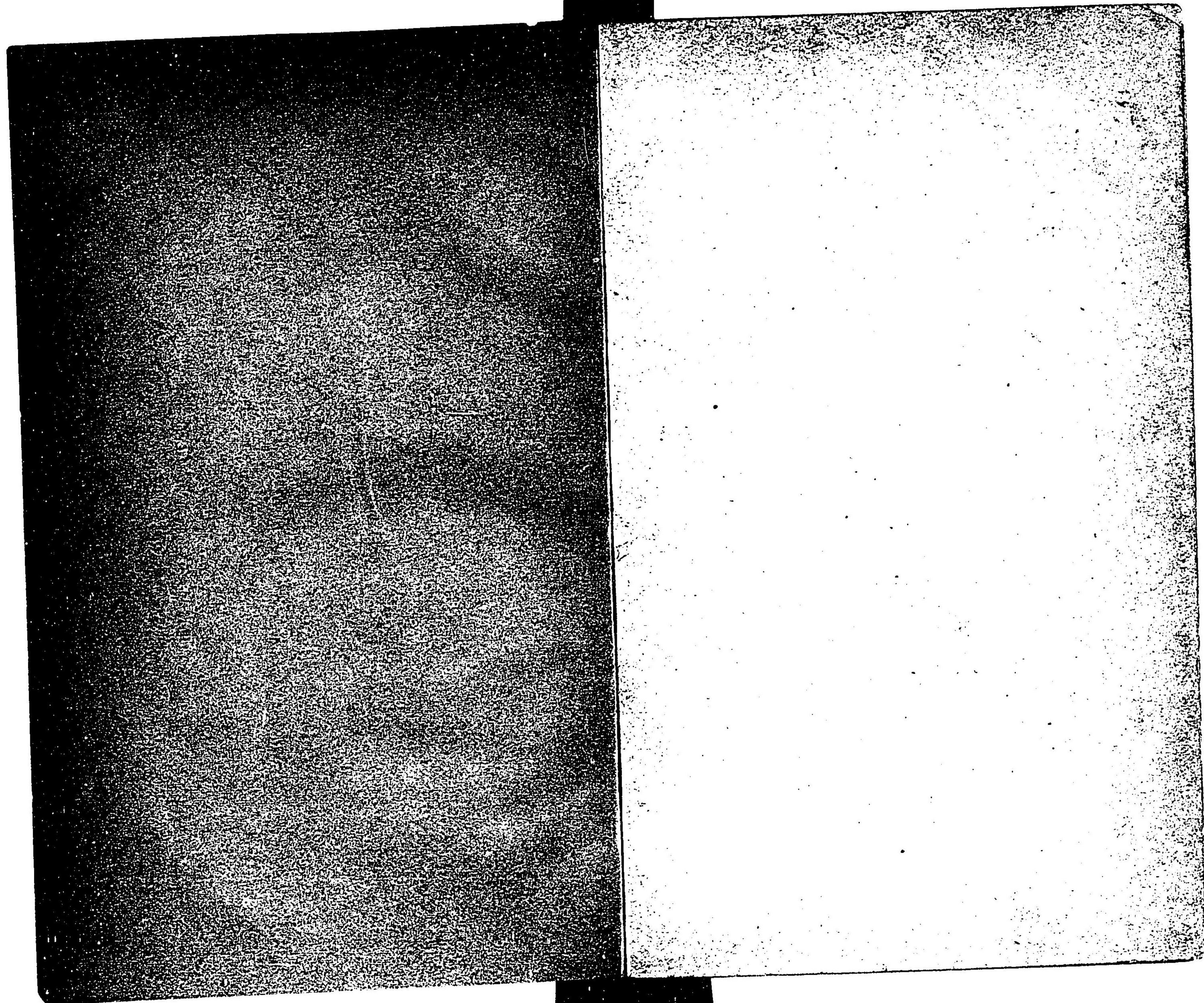
著述者 春山賴母  
東京市麹町區飯田町二丁目四十七番地賴母木勇次郎方寄留

發行者 秋山國助  
東京市神田區旅籠町一丁目十二番地

發行所 水穗會  
東京市麹町區飯田町五丁目八番地

印刷人 近藤圭造  
東京市麹町區飯田町五丁目廿六番地

印刷所 皇典講究所印刷部  
同



68
181



1

014531-000-9

68-181

祝詞作文法(訂正増補)

春山 頼母/著

M25

ABB-0915



